

第32回日本外来小児科学会年次集会

プログラム集

メインテーマ
次世代へのバトン



2023年9月9日(土)~10日(日)

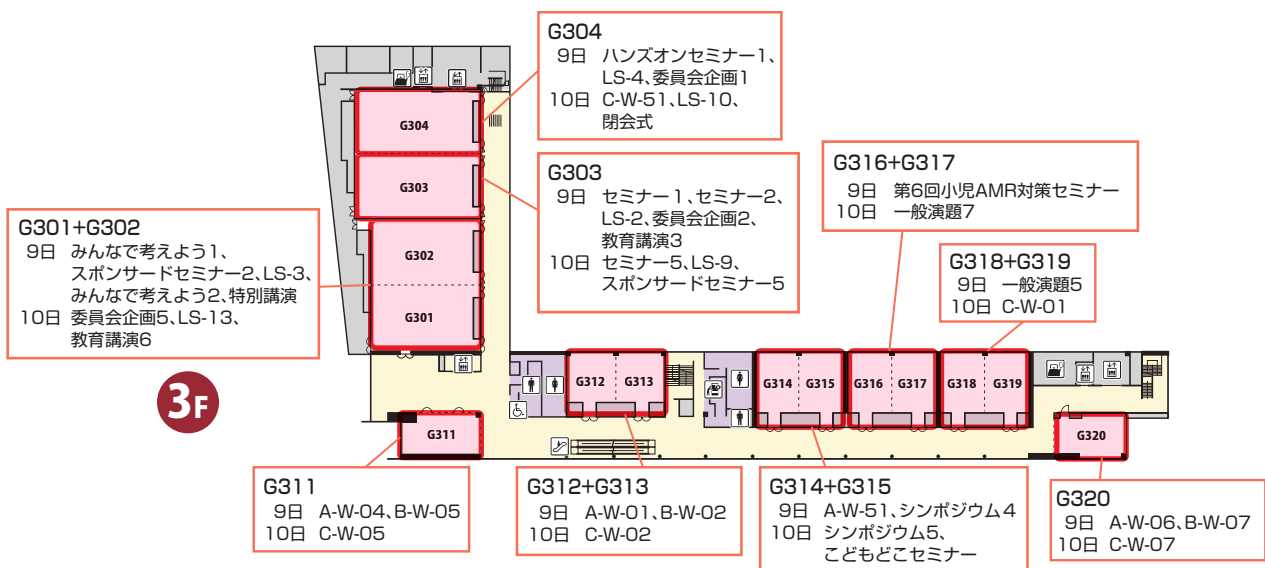
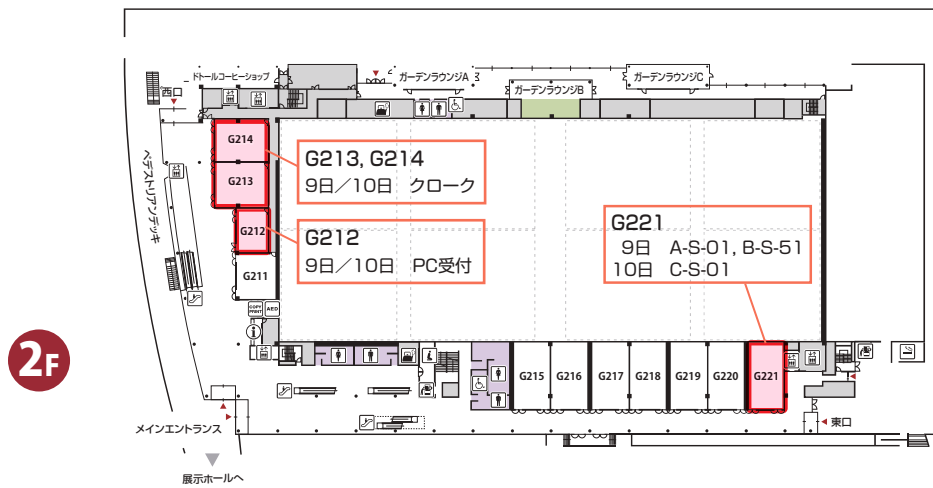
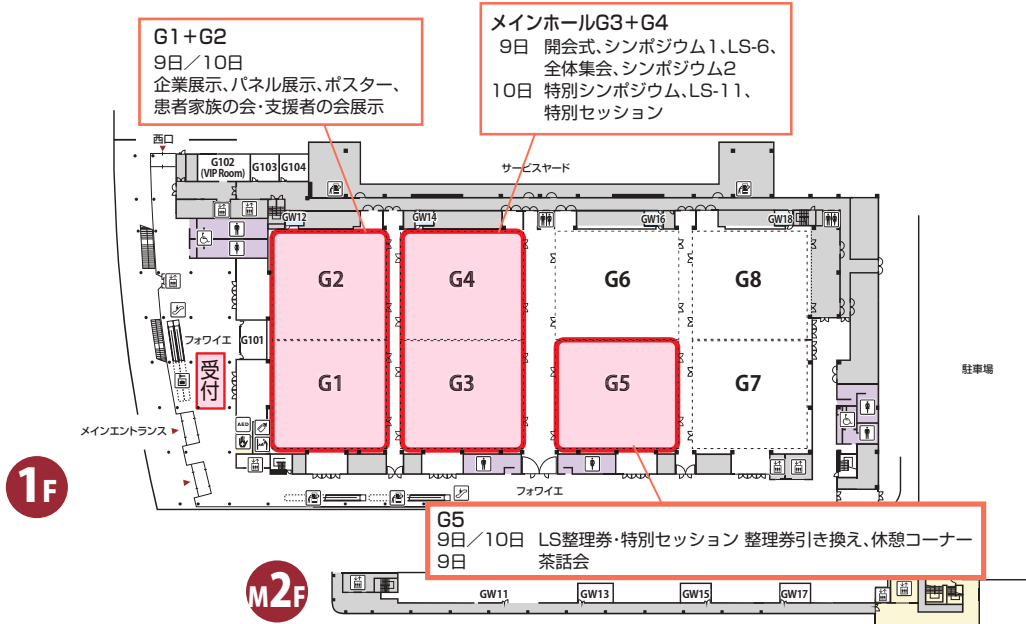
パシフィコ横浜ノース

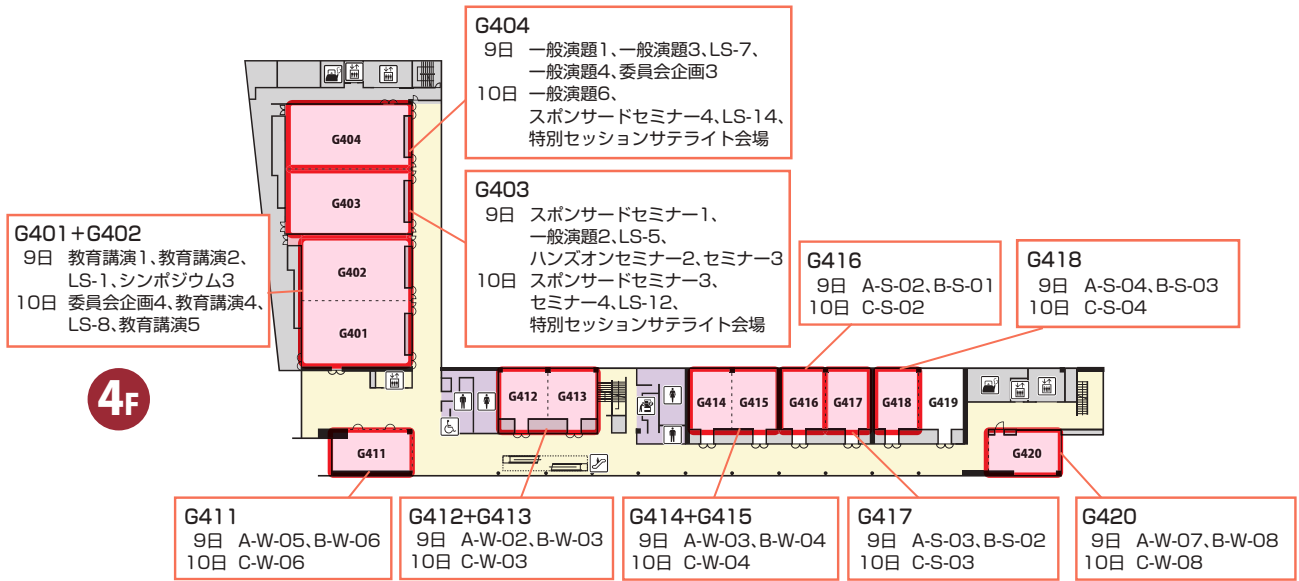
<https://sagpj2023.com>



SAGPJ2023







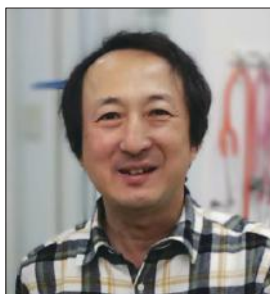
「最新情報・大切なお知らせ」のページはこちら

<https://sagpj2023.sakura.ne.jp/news.html>



※当日のご連絡などもこちらでご案内する予定です。

会頭からのご挨拶



次世代へのバトン

山本 淳
星川小児クリニック院長

全国の小児医療の現場で働く皆様、これから活躍しようと思っている皆様

第32回日本外来小児科学会年次集会は、横浜市で開催することになりました。横浜市での開催というと、2012年、前理事長の横田俊一郎先生を会長に、私が事務局を担当して、多くの仲間たちとともに、今でもわくわくするような楽しさいっぱいの年次集会を企画させていただいたことを思い出します。

それから11年が経過し、私たちも年齢を重ねてきましたが、再び横浜で開催させていただけることになりました。もちろん新しい世代の仲間たちも一緒です。

ところで、本学会は30年の歴史を刻んで参りました。私も自分のクリニックを開院して30年以上になります。私を含め、多くの会員や職場のスタッフは、本学会、特に年次集会に参加するたびに何かを得て、育てていただいたという感謝の気持ちを抱いています。

30年の間に、外来小児科の医療は大きく変化してきました。古い常識や習慣では診療がなりたたなくなってきました。本学会は会員の皆さんの努力で、いつでもその先端を走ってきました。

30年というと、一世代という区切りでしょうか。

そのような思いから、今回のメインテーマは『次世代へのバトン』として、自分たちが得たもの、そして次世代に伝えたいものを、思い出に残るような演出とともに表現してみたいと考えました。

自由な雰囲気での発表、提言ができる一般演題、参加者全員が発言し議論に加わるワークショップ、中華街での楽しい懇親会はもちろん企画しています。

ぜひ、2023年9月、横浜にいらしてください。お待ちしております。





第 32 回日本外来小児科学会年次集会 実行委員

会 頭	山本 淳	(星川小児クリニック・横浜市)
事 務 局	田中 秀朋	(あかちゃんとかどものクリニック・川口市)
実行委員長	佐藤 和人	(上大岡こどもクリニック・横浜市)
委 員	赤平 幸子	(城東こどもクリニック・弘前市)
(五十音順)	在本 祐子	(上大岡こどもクリニック・横浜市)
	石井 真理子	(星川小児クリニック・横浜市)
	伊藤 純子	(虎の門病院・港区)
	岩田 陽子	(かるがも藤沢クリニック・藤沢市)
	江田 明日香	(かるがも藤沢クリニック・藤沢市)
	太田 文夫	(おおた小児科・千葉市)
	太田 まり子	(おおた小児科・千葉市)
	片岡 正	(かたおか小児科クリニック・川崎市)
	栗山 智之	(中標津こどもクリニック・中標津町)
	崎山 弘	(崎山小児科・府中市)
	寺澤 大祐	(岐阜県総合医療センター・岐阜市)
	中島 章子	(ゆいこどもクリニック・横浜市)
	中野 康信	(中野こどもクリニック・横浜市)
	西巻 滋	(横浜市立大学 小児科・横浜市)
	泰道 麗菜	(横田小児科医院・小田原市)
	蜂谷 明子	(蜂谷医院・恵那市)
	橋口 可奈	(星川小児クリニック・横浜市)
	原木 真名	(まなこどもクリニック・千葉市)
	福家 順子	(星川小児クリニック・横浜市)
	松田 幸久	(まつだこどもクリニック・鹿屋市)
	松原 徹	(城東こどもクリニック・弘前市)
	横田 俊一郎	(横田小児科医院・小田原市)
	涌水 理恵	(筑波大学・つくば市)

運営事務局

第 32 回日本外来小児科学会年次集会 運営サポートデスク
(担当：山岸 浩史、小幡 利也)

〒 105-0012
東京都港区芝大門 2-3-6 大門アーバニスト 401
株式会社ブランドゥ・ジャパン内
TEL: 03-5470-4401 FAX: 03-5470-4410
E-mail: sagpj32@nta.co.jp

年次集会参加案内

1. 参加受付

日時／9月 9日(土) 8:00～17:00
9月10日(日) 8:00～15:00
場所／パシフィコ横浜ノース1階フォワイエ

当日参加登録費

	会 員	非会員
医師・歯科医師・一般	18,000 円	21,000 円
メディカルスタッフ・初期研修医	10,000 円	12,000 円
医学部学生・看護学生	4,000 円	4,000 円

- 本年度の年次集会は、非会員の方でもプログラムを別途購入いただく必要はありません。
- 看護学生であっても、メディカルスタッフとして働いていらっしゃる方はメディカルスタッフの料金でご参加ください。
- 大学院生、他学部の学生などの割引料金はありません。
- 医学部学生・看護学生は学生証を示していただきます。(会場の受付にて)
- ※事前登録を第1期登録期間におこなった医学部学生・看護学生の方は必ず「総合案内」にお立ち寄りいただき学生証を提示してください。
- ※初期研修医の方は、申込後、「初期研修医であることを証明する文書」を pdf にして運営事務局宛メールに添付してお送りください。
- 会員の方が登録をする場合には、会員番号が必要になります。

事前登録は **8月22日(火) 13時**までです。

事前登録をしていただくと、前夜祭(ウェルカムパーティ)や、中華街懇親会の予約、ランチョンセミナーの仮申込、特別セッション(特別ゲストによるミニコンサートもあります/無料)の仮申込もできます。

まだ事前登録されていない方は是非登録をお願いいたします。

2. 当日参加をされる方

必ず年次集会ホームページから「WEBでの参加登録・お支払い」をお済ませの上ご来場ください。
受付でのお申込、お支払いはできません。

「第32回日本外来小児科学会年次集会 入金確認のご連絡」メールをご提示ください。「参加証」と「プログラム集」をお渡しいたします。領収書はシステム上でご自身で発行をお願いいたします。

3. 事前登録をされた方

事前登録をされた方は、当日の受付は不要です。会場内では事前参加登録証をネームホルダーに入れて着用し、セミナー等の整理券引き換えや参加される会場に直接お越しください。

当日、事前参加登録証をお忘れになった方は、総合受付にある「総合案内」にお尋ねください。

4. ランチョンセミナー整理券引き換え(引換場所:パシフィコ横浜ノース1階G5)

ランチョンセミナー「引換券」をお持ちの方は、該当セミナー開催日の朝8:30～10:30に必ず「整理券」に引換をお願いいたします。(「引換券」では入場できません)

- ※10:30を過ぎますと、引換券は無効となります、くれぐれも遅れないようご注意ください。
余剰が出た場合、整理券は10:30～当日参加希望の方へお一人1枚配布いたします。

※ 整理券は開始後 10 分で無効となります。遅れないように会場にお越しください。

5. 特別セッション整理券引き換え(引換場所：パシフィコ横浜ノース 1 階 G5)

特別セッション「引換券」をお持ちの方は、9月9日(土) 8:30～14:30 または 9月10日(日) 8:30～13:00 に必ず「整理券」に引換をお願いいたします。(「引換券」では入場できません)

9月10日(日) 13時以降は、引換券は無効となります。

整理券をお持ちの方は、9月10日(日) 14:30までに入場されるようお願いいたします。(セッション自体は 13:50 から開始いたします)

なお、サテライト会場については、整理券なしで自由に聴講できますが、多くの参加者が集中した場合には、入室できないことがあります。

6. 小児科専門医領域講習(現地受講のみ)・専門医共通講習(現地受講のみ)

オンデマンド配信で専門医領域別講習を視聴しても単位の認定はありません。専門医点数は現地にいらしていただいた方が対象です。なお専門医点数は該当プログラムを途中入場、途中退出された場合は付与されませんのでくれぐれもご留意ください。

7. ワークショップの当日申込

年次集会ホームページに記載のあるワークショップについては、先着順で当日申込を受け付けます。ご希望の方は各ワークショップ会場にお越しください。(定員になり次第終了)

8. クローク

日時／9月 9日(土) 8:00～17:30

9月10日(日) 8:00～16:40

場所／パシフィコ横浜ノース 2 階 G213、G214

9. PC データ受付(口演・講演の方はプログラム開始の 40 分前までにご発表データをご提出ください)

日時／9月 9日(土) 8:00～17:00

9月10日(日) 8:00～15:00

場所／パシフィコ横浜ノース 2 階 G212

10. ポスター発表

直接ご自身で、指定されたポスターパネルに貼付を行ってください。

・ 展示場所／パシフィコ横浜ノース 1 階 G1 + G2

(企業展示、患者家族の会・支援者の会展示、パネル展示などと同じ会場です)

・ 貼付／9月 9日(土) 8:00～12:00

・ 展示／9月 9日(土) 9:10～17:00、9月10日(日) 9:00～12:40

・ 撤去／9月10日(日) 12:40～14:30

※ 9月10日(日) 14:30 以降になっても撤去されない場合は事務局にて撤去・処分させていただきます。

11. 場内でのお願い

・ 講演会場での撮影・録音は禁止です。

・ 特別セッションの会場では、入場後前方から順に着席いただきます。お連れの方の場所取りは固くお断りいたします。

・ スタッフのご案内、誘導には従っていただきますようお願いいたします。

・ 新型コロナウイルスなどの感染状況によってはマスク着用などをお願いする場合がございます。



9月9日(土)の日程表はこちらから



1日目

9月9日(土)

各プログラム内のページ表記は「プログラム」および「一覧」掲載ページです。

会場名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
1階	G1+G2	ポスター貼付									
		企業展示、パネル展示、ポスター、患者家族の会・支援者の会展示									
	メインホール G3+G4	開 会 式	シンポジウム 1 P.10			LS-6 P.38	全体集会	シンポジウム 2 P.11			
	G5		LS整理券引き換え	余剰LS整理券配布			特別セッション 整理券引き換え				茶話会
	休憩コーナー										
2階	G221	A-S-01 P.37					拡大 SM/ B-S-51 P.15				
3階	G301+G302	みんなで 考えよう 1 P.12		スポンサー セミナー 2 P.38		LS-3 P.38	みんなで 考えよう 2 P.12		特別講演 P.10		
	G303	セミナー 1 P.13		セミナー 2 P.13		LS-2 P.38	委員会企画 2 生涯学習委員会 P.14		教育講演 3 P.12		
	G304	ハンズオンセミナー 1/ A-H-01 P.15				LS-4 P.38	委員会企画 1 園・学校保健委員会 P.14				
	G311	WS/A-W-04 P.36					WS/B-W-05 P.36				
	G312+G313	WS/A-W-01 P.36					WS/B-W-02 P.36				
	G314+G315	拡大 WS/A-W-51 P.15					シンポジウム 4 P.11				
	G316+G317	第 6 回小児 AMR 対策セミナー ※ 14:30-16:00 のグループワークは WS/B-W-01 P.15									
	G318+G319						一般演題 5 感染症・ワクチン P.18				
	G320	WS/A-W-06 P.36					WS/B-W-07 P.36				
	4階	G401+G402	教育講演 1 P.12		教育講演 2 P.12		LS-1 P.38	シンポジウム 3 P.11			
G403		スポンサー セミナー 1 P.38		一般演題 2 地域活動・病児 保育・育児支援 P.16		LS-5 P.38	ハンズオンセミナー 2/ B-H-01 P.15		セミナー 3 P.13		
G404		一般演題 1 発達障害診療・ 心理相談 P.16		一般演題 3 健診で見えてきた こどもたちの問題点 P.17		LS-7 P.38	一般演題 4 調査・報告 P.17		委員会企画 3 倫理委員会 P.14		
G411		WS/A-W-05 P.36					WS/B-W-06 P.36				
G412+G413		WS/A-W-02 P.36					WS/B-W-03 P.36				
G414+G415		WS/A-W-03 P.36					WS/B-W-04 P.36				
G416		SM/A-S-02 P.37					SM/B-S-01 P.37				
G417		SM/A-S-03 P.37					SM/B-S-02 P.37				
G418		SM/A-S-04 P.37					SM/B-S-03 P.37				
G420		WS/A-W-07 P.36					WS/B-W-08 P.36				



2日目

9月10日(日)

9月10日(日)の日程表はこちらから



会場名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00		
		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30		
1階	G1+G2	ポスター展示				ポスター撤収							
		企業展示、パネル展示、患者家族の会・支援者の会展示											
	メインホール G3+G4	特別シンポジウム P.10			LS-11 P.38		特別セッション P.10						
	G5	LS整理券引き換え		余剰LS整理券配布		特別セッション 整理券引き換え		休憩コーナー					
2階	G221	SM/C-S-01 P.37											
3階	G301+G302	委員会企画 5 P.14			LS-13 P.38		教育講演 6 P.13						
	G303	セミナー 5 P.13			LS-9 P.38		スポンサード セミナー 5 P.38						
	G304	拡大 WS/C-W-51 P.15			LS-10 P.38		閉会式						
	G311	WS/C-W-05 P.37											
	G312+G313	WS/C-W-02 P.36											
	G314+G315	シンポジウム 5 P.12			こどもとこセミナー 医学生・若手医師支援委員会 P.15								
	G316+G317	一般演題 7 外来診療に おける取り組み P.19											
	G318+G319	WS/C-W-01 P.36											
	G320	WS/C-W-07 P.37											
4階	G401+G402	P.14	委員会企画 4 研究部会・診療ガイド ライン 委員会共同企画		教育講演 4 P.13		LS-8 P.38		教育講演 5 P.13				
	G403	スポンサード セミナー 3 P.38		セミナー 4 P.13		LS-12 P.38		特別セッション サテライト会場					
	G404	P.18	一般演題 6 臨床(アレルギー ・その他)		スポンサード セミナー 4 P.38		LS-14 P.38		特別セッション サテライト会場				
	G411	WS/C-W-06 P.37											
	G412+G413	WS/C-W-03 P.36											
	G414+G415	WS/C-W-04 P.36											
	G416	SM/C-S-02 P.37											
	G417	SM/C-S-03 P.37											
G418	SM/C-S-04 P.37												
G420	WS/C-W-08 P.37												

プログラム内の略号… WS: ワークショップ、SM: ショートミーティング
LS: ランチョンセミナーです

▶▶▶プログラム◀◀◀

特別講演

9月9日(土)15:50~17:00 G301+G302(3階)

司会：山本 淳 (星川小児クリニック)

- 小児喘息治療の歴史 (180 度の大転換はどのようにして起こったか) P.20
西川 清 ((医)にしかわクリニック)

特別シンポジウム

9月10日(日)8:50~11:20 メインホールG3+G4(1階)

司会：横田 俊一郎 (横田小児科医院)、崎山 弘 (崎山小児科)

次世代へのバトン

- 五十嵐正紘さんから受けた「研究活動のバトン」を皆さんに託します P.20
絹巻 宏 (絹巻小児科クリニック)
- 私がバトンとして渡したいものは何でしょう？ P.20
原 朋邦 (医療法人社団皆誠会 はらこどもクリニック)
- 「小児科クリニック」は、プライマリ・ケアの知識と技能、態度を学び、
“やり甲斐や魅力”を感じる場である P.20
武谷 茂 (久留米大学医学部小児科学講座)
- コメディカル分野・院内報ネットワークと医療保育ネットワーク活動 P.20
島田 康 (しまだ小児科)
- 次世代へのバトン～メディカルスタッフの連携～ P.21
木下 博子 (ほじん薬局 (元大分こども病院薬剤室))

特別セッション

9月10日(日)13:50~16:10 メインホールG3+G4(1階)

※サテライト会場 G403、G404

災害と小児医療と私たち

ゲスト：さだまさし

開業医の災害ボランティアについて P.41

松田 幸久 (医療法人あきなお会まつだこどもクリニック)

災害と小児科医

～どんな時でも 私たちは 弱い人を守る～ P.41

寺澤 大祐 (岐阜県総合医療センター 新生児内科/
公益財団法人 風に立つライオン基金 風の団 専門団/災害時小児周産期リエゾン)

シンポジウム 1

9月9日(土)9:10~11:40 メインホールG3+G4(1階)

司会：中野 康伸 (中野こどもクリニック)

COVID-19 それぞれの視点からの教訓

横浜市における小児 COVID-19 医療体制構築と課題への対応、今後の展望 P.21

～統括実務担当者の視点から～

西村 謙一 (横浜市立大学附属病院 小児科)

コロナ禍における子ども施策の変遷 P.21

岩田 眞美 (横浜市こども青少年局)



専門家会議等の委員の立場として考えた小児の COVID-19

P.21

岡部 信彦 (川崎市健康安全研究所)

シンポジウム 2

9月9日(土)14:30~17:00 メインホールG3+G4(1階)

司会：涌水 理恵(筑波大学)、蜂谷 明子(蜂谷医院小児科)

子どもと家族の関係性に着目した『こころの問題、愛着形成、発達障害等』への多角的な視点およびアプローチ

子どもと家族の関係性に着目した『こころの問題、愛着形成、発達障害等』への多角的な視点及びアプローチ

P.21

明和 政子 (京都大学大学院教育学研究科)

関係性を取り扱うことの難しさー家族遊戯療法という試み

P.22

川畑 友二 (クリニック川畑)

WISC 知能検査の正しい理解：発達障害の理解に役立てるために

P.22

大六 一志 (公認心理師)

子どものこころの診療における親子並行治療の実際

P.22

山崎 知克 (浜松市子どものこころの診療所)

シンポジウム 3

9月9日(土)14:30~17:00 G401+G402(4階)

司会：太田 文夫(おおた小児科)、片岡 正(かたおか小児科クリニック)

新型コロナウイルス感染症と Vaccine Hesitancy

新型コロナウイルス感染症流行が国内の vaccine hesitancy に与えた影響

P.22

勝田 友博 (聖マリアンナ医科大学小児科学教室)

新型コロナワクチンの国内外の有効性と安全性の評価

P.22

菅谷 明則 (すがやこどもクリニック/NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会)

小児科医にも潜んでいる Vaccine Hesitancy

P.23

～なんとなく納得していませんか？～

藤岡 雅司 (医療法人ふじおか小児科/NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会)

医師会、行政、メーカーとの連携と問題点

P.23

峯 真人 (医療法人自然堂峯小児科)

シンポジウム 4

9月9日(土)14:30~17:00 G314+G315(3階)

司会：田中 秀朋(あかちゃんとかどものクリニック)、在本 祐子(上大岡こどもクリニック)

小さく生まれた赤ちゃんのクリニックでの子育て支援

家族の絆をつなぐための援助

P.23

藤塚 真希 (横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻)

370g の出産と子育て～リトルベビーハンドブック作成への想い～

P.23

坂上 彩 (かながわりトルベビーサークル pena)

早産・低出生体重児の NICU 入院中から退院後の支援

P.23

豊島 勝昭 (神奈川県立こども医療センター新生児科)

シンポジウム 5

9月10日(日)8:50~11:20 G314+G315(3階)

司会：太田 文夫 (おおた小児科)

小児科外来の「その先」を考えてみませんか
～発達障害者の就労支援施設での経験をお聞きして～

障害者のある子の就労における課題 P.24

平林 計重 (NPO 法人障害者の就労を支援する会)

カフェ・ハーモニーを利用する人たちの状況 P.24

角口 由紀子 (NPO 法人障害者の就労を支援する会)

みんなで考えよう 1

9月9日(土)9:10~10:20 G301+G302(3階)

司会：福岡 圭介 (福岡小児科アレルギー科)

授乳・離乳の支援ガイド再考 ～なぜ卵黄が先なの？～

乳児に卵黄、卵白を食べさせる時期のアンケート調査 P.24

西村 龍夫 (にしむら小児科)

『なぜ卵黄が先か：日本の離乳指導の歴史から解き明かす』 P.24

瀬川 雅史 (医療法人社団のえる小児科)

みんなで考えよう 2

9月9日(土)14:30~15:40 G301+G302(3階)

司会：橋口 可奈 (星川小児クリニック)

乳児のスキンケアはどこまで必要？

スキンケアのエビデンスはどこまで分かっている？ P.24

福家 辰樹 (国立成育医療研究センターアレルギーセンター)

乳児のスキンケアのアンケート調査 P.25

西村 龍夫 (にしむら小児科)

教育講演 1【専門医：小児科領域別講習】(現地のみ) 9月9日(土)9:10~10:10 G401+G402(4階)

司会：原木 真名 (まなこどもクリニック)

小児の腹痛を超音波で診る～「壁の向こう側」が見えてくる～ P.25

河野 達夫 (東京都立小児総合医療センター 放射線科)

教育講演 2【専門医：小児科領域別講習】(現地のみ) 9月9日(土)10:40~11:40 G401+G402(4階)

司会：西巻 滋 (横浜市立大学)

川崎病の原因論 60年の時空を超えたミステリー P.25

伊藤 秀一 (横浜市立大学大学院 医学研究科 発生成育小児医療学)

教育講演 3

9月9日(土)16:00~17:00 G303(3階)

司会：瀬尾 智子 (緑の森こどもクリニック)

ここまでわかる成長曲線 P.25

伊藤 純子 (虎の門病院)

**教育講演 4【専門医：小児科領域別講習】(現地のみ) 9月10日(日)10:20~11:20 G401+G402(4階)**

司会：西巻 滋 (横浜市立大学)

食べることを嫌がる乳幼児と養育者への支援
神話から科学的な対応へ

P.25

大山 牧子 (神奈川県立こども医療センター)

教育講演 5

9月10日(日)13:00~14:00 G401+G402(4階)

司会：涌水 理恵 (筑波大学)

子どもの発達を「感覚」から紐解く ~敏感さんと鈍感さんの子育て支援~

P.26

高橋 香代子 (北里大学作業療法学専攻)

教育講演 6【専門医：小児科領域別講習】(現地のみ) 9月10日(日)13:00~14:00 G301+G302(3階)

司会：伊藤 純子 (虎の門病院)

育児ビッグデータからみた乳児の成長と発達

P.26

鳴海 覚志 (慶應義塾大学医学部小児科学教室)

セミナー 1

9月9日(土)9:10~10:20 G303(3階)

司会：田中 秀朋 (あかちゃんとこどものクリニック)

小児科医と保護者がともに作る「信頼の医療」へ
~ここ1年の新たな展開と今後の展望~

P.26

阿真 京子 (特定非営利活動法人 日本医療政策機構)

セミナー 2

9月9日(土)10:30~11:40 G303(3階)

司会：江田 明日香 (藤沢かるがもクリニック)

医療的ケア児の保育園での生活

P.26

遠藤 明子 (社会福祉法人そだちの杜 ひびき金港町保育園)

セミナー 3

9月9日(土)15:50~17:00 G403(4階)

司会：中野 康伸 (中野こどもクリニック)

今こそ生かそう！
こどもの心と身体に効く漢方

P.26

森 蘭子 (森こどもクリニック)

セミナー 4

9月10日(日)10:10~11:20 G403(4階)

司会：中野 康伸 (中野こどもクリニック)

楽しく学ぼう！こども漢方入門

P.27

坂崎 弘美 (さかざきこどもクリニック)

セミナー 5

9月10日(日)8:50~11:20 G303(3階)

司会：蜂谷 明子 (蜂谷医院小児科)

メディカルスタッフミーティング『小児科における接遇を学びましょう！』

P.27

福田 智子 (中北薬品株式会社 マナーインストラクター部)

委員会企画 1

9月9日(土)14:30~17:00 G304(3階)

園・学校保健委員会

医療関係者が知らなかった保育園・幼稚園の現場の困りごとをよく知ろう

P.27

須貝 雅彦 (医療法人社団おひさまクリニック)

委員会企画 2

9月9日(土)14:30~15:40 G303(3階)

司会: 藤森 誠 (藤森小児科)

生涯学習委員会

e-ラーニングのすすめ—自分の知識の確認と立ち位置を知る—

P.27

長井 健祐 (長井小児科医院)

委員会企画 3【専門医:共通講習】(現地のみ)

9月9日(土)16:00~17:00 G404(4階)

倫理講習会

研究計画書における倫理的配慮のポイント ~倫理審査委員会の視点から~

P.28

三品 浩基 (神戸市こども家庭局)

委員会企画 4

9月10日(日)8:50~10:00 G401+G402(4階)

司会: 西垣 佳織 (聖路加国際大学大学院)、杉村 徹 (杉村こどもクリニック)

研究部会・診療ガイドライン委員会 共同企画

『診療に生かす、臨床研究とガイドライン』

グラム染色を診療に導入した結果を臨床研究につなげて

P.28

前田 雅子 (まえだ耳鼻咽喉科クリニック)

診療に生かす、臨床研究とガイドライン

P.28

—ここまで変わったガイドラインの作り方・使い方

伊藤 純子 (虎の門病院)

委員会企画 5

9月10日(日)8:50~11:20 G301+G302(3階)

司会: 井上 佳也 (井上こどもクリニック)、谷村 聡 (たにむら小児科)

授乳と補完食に関する検討会主催 Special Interest Group

『“一歩踏み込んだ”授乳と補完食に関する情報』

乳幼児の栄養とマーケティング

P.28

名西 恵子 (東京大学大学院医学系研究科)

混合栄養がいいって、ホント?

P.28

多田 香苗 (林間こどもクリニック)

母乳育児を支援する—赤ちゃんの鉄欠乏を中心に—

P.29

富本 和彦 (とみもと小児科クリニック)

授乳と補完食に関する最近の動き~

フォローアップミルクとベビーフードについて考える~

P.29

瀬尾 智子 (緑の森こどもクリニック)



拡大ワークショップ (A-W-51)

9月9日(土)9:10~11:40 G314+G315(3階)

Baby-Led Weaning (赤ちゃん主導の離乳) を学ぶ

リーダー：尾形 夏実 (一般社団法人 日本 BLW 協会代表理事)

サブリーダー：山田 翔 (たけのやま歯科)

[拡大ワークショップ\(A-W-51\)の紹介はこちらから](#)

拡大ワークショップ (C-W-51)

9月10日(日)8:50~11:20 G304(3階)

発達応援実践企画「笑顔引き出す診察室へようこそ！」～コツを使ってほめ上手になろう～

リーダー：赤平 幸子 (城東こどもクリニック)

サブリーダー：天満 麻美 (かるがも藤沢クリニック)、中島 章子 (ゆいこどもクリニック)、
湧水 理恵 (筑波大学 医学医療系)[拡大ワークショップ\(C-W-51\)の紹介はこちらから](#)

拡大ショートミーティング (B-S-51)

9月9日(土)14:30~15:40 G221(2階)

電話トリアージ どうやっていますか

リーダー：太田 まり子 (おおた小児科)

[拡大ショートミーティング\(B-S-51\)の紹介はこちらから](#)

ハンズオンセミナー 1

9月9日(土)9:10~11:40 G304(3階)

改めて、一般小児科外来での湿潤療法～初心者編～

P.29

リーダー：八木 和郎 (小児科八木医院)

サブリーダー：岡田 清春 (おかだ小児科医院)、福田 弥一郎 (福田診療所)

ハンズオンセミナー 2

9月9日(土)13:40~15:40 G403(4階)

「抱っこ・おんぶの安全で快適な手技と抱っこ紐(子守帯)の使い方」

P.29

リーダー：栗田 京子 (株式会社グッドウェイ)

サブリーダー：樋口 博之 (ラッキー工業株式会社)、

園田 正世 (北極しろくま堂有限公司/NPO 抱っことおんぶの研究所/東京大学大学院)、

深井 誠 (ベビービョルン株式会社)

小児 AMR 対策セミナー

9月9日(土)9:10~16:00 G316+G317(3階)

※ 14:30 ~ 16:00 のグループワークはワークショップ (B-W-01) のため、定員制

第 6 回小児薬剤耐性 (AMR) 対策セミナー

P.30

リーダー：明神 翔太 (兵庫県立こども病院 感染床内科/国立成育医療研究センター 感染症内科)

こどもどこセミナー

9月10日(日)13:10~15:40 G314+G315(3階)

※対象：医学生・初期研修医・後期研修医 (30名) 予約制

司会：荒川 明里 (中川の郷療育センター)、米谷 僚子 (滋賀医科大学)

医学生・若手医師支援委員会こどもどこセミナー

「未来を見た男の話」

P.30

植田 育也 (埼玉県立小児医療センター)

一般演題 1 発達障害診療・心理相談

9月9日(土)9:10~10:10 G404(4階)

司会：中島 章子 (ゆいこどもクリニック)

- 1-1 発達障害診療に有用であった学習と遊びの活動
藤井 厚一郎 耳原総合病院
- 1-2 絵カードを用いた発達障害の児への服薬支援
松本 康弘 ワタナベ薬局上宮永店
- 1-3 便秘への運動療育の可能性。医療との連携を通じて
植西 祐樹 (株)ピースプラント/くぼたこどもクリニック
- 1-4 発達障害児の慢性機能性便秘症への運動療育アプローチの報告
久保田 恵巳 くぼたこどもクリニック
- 1-5 地域小児科で行う心理相談の意義
橋本 友紀 横田小児科医院
- 1-6 オンライン医療相談から自治体に連携した47ケースの検討
白井 沙良子 株式会社 Kids Public



一般演題 1 の抄録はこちらからご覧ください



一般演題 2 地域活動・病児保育・育児支援

9月9日(土)10:30~11:30 G403(4階)

司会：原 朋邦 (はらこどもクリニック)

- 2-1 地域での活動を振り返って～次世代へのバトンタッチ
倉信 均 梶原診療所
- 2-2 病児保育事業の新型コロナウイルス流行と ICT 導入の影響分析
園田 正樹 東京大学 産婦人科学教室/株式会社グッドバトン
- 2-3 新型コロナウイルス流行後の病児保育施設への利用相談についての検討
馬場 一徳 ばば子どもクリニック
- 2-4 補助金に頼りすぎない病児保育室運営への挑戦
～自主運営型病児保育室開設 1 年半の実践報告～
吉岡 淑隆 医療法人社団 紡 つむぎこどもクリニック
- 2-5 小児科クリニックと助産院の連携した育児支援
若木 博子 おおきこどもクリニック
- 2-6 子どもの権利条約にある権利に関する子どもと共に行う研究
－ COVID-19 パンデミック下の国際比較 －
武内 一 佛教大学社会福祉学部/ウメオ大学疫学とグローバルヘルス学科



一般演題 2 の抄録はこちらからご覧ください



一般演題 3 健診で見えてきた子どもたちの問題点

9月9日(土)10:30~11:30 G404(4階)

司会：川上 一恵 (かずえキッズクリニック)

3-1 子供たちの眼が危ない！近視は5年前に比べ増加し低年齢化している。
SVSによる疫学調査。

野末 富男 のずえ小児科

3-2 中野区立小学校での運動指導の報告

井浦 大知 上高田ちば整形外科・小児科

3-3 生後10カ月間の体重増加の学童期肥満へのトラッキング

尾崎 貴視 三豊・観音寺市医師会

3-4 当院における多職種による小児肥満診療のとりくみ

林 麻子 北海道医療大学病院 小児科

3-5 著明な肥満改善率を得た公立全寮制特別支援学校の取り組み

岩間 真弓 亀田総合病院 小児科

3-6 コドモノいっぽクリニックにおける3・4ヶ月健診への取り組み

舘 美紀 医療法人社団のびた コドモノいっぽクリニック



一般演題 3 の抄録はこちらからご覧ください



一般演題 4 調査・報告

9月9日(土)14:30~15:30 G404(4階)

司会：米川 元晴 (おひげせんせいのこどもクリニック)

4-1 こどもどこスタッフの進路～次世代のこどもどこへ～

清水 翔 旭川医科大学医学部医学科/日本外来小児科学会 医学生・研修医ネットワーク「こどもどこ」

4-2 外的要因による事象を主訴とする電話相談

～令和3年度 大阪府# 8000 の報告～

山下 治子 NPO 法人小児救急医療サポートネットワーク

4-3 退院後の新生児に対する産婦人科医の対応に関するアンケート

福井 聖子 NPO 法人小児救急医療サポートネットワーク

4-4 BCG ワクチン接種部位への外用ステロイド剤使用に関する実態調査

横田 俊一郎 横田小児科医院

4-5 モビコール® の溶解飲料の実態調査

牟田 広実 いいづかこども診療所

4-6 『小児靴の手引き書2023』発刊のご報告

伊藤 笑子 日独小児靴学研究会/合同会社フェルゼ/

日本フットケア・足病医学会 学術委員会「子どもの足靴改革ワーキンググループ」



一般演題 4 の抄録はこちらからご覧ください



一般演題 5 感染症・ワクチン

9月9日(土)14:30~15:40 G318+G319(3階)

司会：小林 憲昭（こばやしこどもクリニック）

- 5-1 日本小児科医のRSウイルス感染症予防の現状に対する認識とアンメットニーズに関するWebアンケート調査
関根 英輝 MSD 株式会社メディカルアフェアーズ
- 5-2 RSウイルス感染症が保護者や医療従事者に及ぼす負担に対する小児科医の認識に関するWebアンケート調査
関根 英輝 MSD 株式会社メディカルアフェアーズ
- 5-3 小児における新型コロナウイルス再感染例の検討
村瀬 真紀 むらせ赤ちゃんこどもクリニック
- 5-4 同時流行期における新型コロナウイルス感染症、季節性インフルエンザの臨床像の相違
村瀬 真紀 むらせ赤ちゃんこどもクリニック
- 5-5 ワクチン出荷制限によるワクチン接種率に関する評価
水野 泰昭 静岡市立清水病院小児科
- 5-6 2022-23年度の経鼻生インフルエンザワクチン「フルミスト」の有効性は不活化ワクチンと同等であった
佐野 正 キッズクリニックさの
- 5-7 水痘ワクチン接種スケジュールの再検討に向けて
伊藤 舞美 はしもと小児科



一般演題 5 の抄録はこちらからご覧ください



一般演題 6 臨床（アレルギー・その他）

9月10日(日)8:50~10:00 G404(4階)

司会：岩間 義彦（岩間こどもクリニック）

- 6-1 小児アレルギー外来における皮膚テスト (skin prick testing) の活用 第二報
高尾 亜衣 徳田ファミリークリニック 小児・アレルギー科
- 6-2 ステロイドを使わない乳児湿疹・アトピー治療
～モクタルという古い薬を使ってみませんか？～
浅田 和豊 医療法人四摂法 あさだ医院
- 6-3 思春期におけるアトピー性皮膚炎のセルフケア支援と課題
有川 邦子 聖隷佐倉市民病院
- 6-4 当院でのスギ舌下免疫療法の検討
伊藤 孝子 医療法人社団まなと会 はしもと小児科
- 6-5 母乳栄養児のビタミンD欠乏と日光浴
鶴田 恵子 川井小児科クリニック
- 6-6 乳幼児健診および小児科で不器用と言われ続けていた局所性ジストニアの10歳男児例
神田 恵津子 キッコーマン総合病院
- 6-7 選択性緘黙を抱える児に対するプレイセラピーの事例
芦谷 将徳 福岡大学／おおやこどもクリニック



一般演題 6 の抄録はこちらからご覧ください



一般演題 7 外来診療における取り組み 9月10日(日)10:10~11:10 G316+G317(3階)

司会：山森 裕之 (山森小児科)

- 7-1 キャップスクリニックの取り組み
 -患者の受診時の困りごとに対する SNS 配信の役割について-
 小笠原 千尋 医療法人ナイズ
- 7-2 キャップスクリニックの取り組み
 -患者が抱える受診時の困りごとについて-
 太田 百香 医療法人社団ナイズ
- 7-3 こどもが喜ぶ外来の工夫
 高柳 直己 たかやなぎ小児科
- 7-4 家族へ指導したホームケアの活用状況の調査
 山本 由起子 神戸こども初期急病センター
- 7-5 頭の形について相談時、どうしていますか？ ~生後4か月までの保護者へのアンケートから見えてくるもの~
 飯泉 哲哉 いいずみファミリークリニック
- 7-6 当院における頭蓋骨矯正ヘルメット治療による後頭部左右対称率の改善
 市村 真也 医療法人社団慶真会 川崎中央クリニック



一般演題 7 の抄録はこちらからご覧ください


一般演題 8 ポスター発表 9月9日(日)12:30~17:00/9月10日(日)9:00~12:40 G1+G2(1階)

- 8-1 初期臨床研修制度における一般外来診療研修の指導方法の探索的調査
 川畑 秀伸 帯広畜産大学 保健管理センター
- 8-2 琉球政府発行の母子手帳
 今西 康次 じねんこどもクリニック
- 8-3 当院における過去5年間の食物経口負荷試験の解析
 春日 亜紀 医療法人松本小児科医院
- 8-4 外国にルーツを持つ子どもの診療所受診に関する実態調査
 藤田 優一 武庫川女子大学
- 8-5 予防接種を安全に確実にを行う
 ~ごちゃごちゃを滅茶苦茶にしない工夫~
 佐治 佑奈 医療法人双優会つつじが丘こどもクリニック
- 8-6 坐剤の分割使用時の投与量と作成した指導文書の有効性の検証
 池田 貴司 サンシャインスター薬局
- 8-7 地域のニューボラを目指す取り組み
 ~切れ目ない子育て支援に向けて~
 則本 真理 社会医療法人 同仁会 みみはら高砂クリニック



一般演題 8 の抄録はこちらからご覧ください





9月9日(土) 15:50～17:00 G301+G302 (3階)	
特別講演	司会: 山本 淳 (星川小児クリニック)
小児ぜんそく治療の歴史(180度の大転換はどのようにしておこったのか) 西川 清 (医) (にしかわクリニック)	
<p>現在気管支喘息は気道炎症であり、allergyのメカニズムも明らかになり、定期吸入と生物学的製剤でいとも簡単に治療できる時代。しかしここに至るまでに日本の医療史上類をみない大転換があったことを知るDrももう少なくなってきた。その治療の大転換の渦中にいた演者としては、若い先生方にその歴史的事実をお話し、疾患の病態・症状と治療について常に目を見開いてみる必要があることをお伝えしたい。30数年前まで喘息は、精神心理的疾患、母原病、β_2吸入過使用による気道攣縮などが原因とされ、鍛錬療法心理治療などが行なわれていたが、患者の症状は非常に重症になり、夜間救急外来やICUのメインの疾患となり、それでも薬を手控え、喘息死も高頻度に見られていた。今考えれば全ての医者が集団催眠にあるいはマインドコントロールに罹っていた。発作洪水に疲弊しすぎる思いで開始したDSOG+少量β_2定期吸入の驚くべき効果を目の当たりにし、症例を重ね学会で発表し始めたが、そこには予想以上の逆風が待っていた。</p>	
9月10日(日) 8:50～11:20 メインホール G3 + G4 (1階)	
特別シンポジウム 次世代へのバトン	司会: 横田 俊一郎 (横田小児科医院)、崎山 弘 (崎山小児科)
五十嵐正紘さんから受けた「研究活動のバトン」を皆さんに託します 絹巻 宏 (絹巻小児科クリニック)	
<p>本学会の研究活動の基礎を作ったのは、故・五十嵐正紘さん(1940-2008)です。五十嵐さんは「小児プライマリケアの学問化」と「研究発表の場の確保」を目指して、日本外来小児科学研究会の設立(1991)に奔走し、設立後は外来小児科学研究の活性化に尽力されました。多くの会員がその指導を受けて研究に取り組み、成果を挙げてきました。本講演では、皆さんの記憶に留めて頂きたいこととして、五十嵐さんがなぜ研究会設立を目指したか、設立後に何を行ったかを紹介し、本学会における研究活動の意義・重要性について私見を交えお話しします。</p>	
9月10日(日) 8:50～11:20 メインホール G3 + G4 (1階)	
特別シンポジウム 次世代へのバトン	司会: 横田 俊一郎 (横田小児科医院)、崎山 弘 (崎山小児科)
私がバトンとして渡したいものは何でしょう? 原 朋邦 (医療法人社団皆誠会 はらこどもクリニック)	
<p>1991年、学会設立の推進者であった徳丸實さんを会長にして発足しましたが、204人が参加しましたが、今回の演者は全てそうです。年次集会だけでなく色々の学びの機会を創り良くも悪くも歴史みたいなものを創ったことになるかと思えます。然し、今回の企画で今行っていることを継承して欲しいということが良い事かとなると問題はある様に思えます。私共は学びを企画し、知識を得てそれを日常の自分の仕事に活用しました。とても感激的な経験もできました。然し、心残りもあります。子どものヘルスケアの基本的な面に関わりながら、医学教育への貢献度やホスピタルケアラーとの共同の学びや研究の面です。現在は知識や技術の習得も便利になり、意見の交流も便利な方法が登場しました。学会は構成員である学会員の意志でどのようにも活動ができます。子どもに関わる全ての職種との連携の質の向上を祈ることをバトンにしたいと思えます。</p>	
9月10日(日) 8:50～11:20 メインホール G3 + G4 (1階)	
特別シンポジウム 次世代へのバトン	司会: 横田 俊一郎 (横田小児科医院)、崎山 弘 (崎山小児科)
「小児科クリニック」は、プライマリ・ケアの知識と技能、態度を学び、「やり甲斐や魅力」を感じる場である 武谷 茂 (久留米大学医学部小児科学講座)	
<p>次世代へのバトンとして、教育部会のプロダクトの中から「クリニック実習」を挙げたい。 開業医のクリニックは、外来・総合医療のアートとサイエンスを体験学習できる最良の場である。そこで医学生は、患児がもつプロブレムが良好なコミュニケーションのもとで解決されていく過程を生々しく経験し、「医のあり方」を考えながら自己の医師像を描くのである。 2001年に当学会が企画した『全国医学生のための小児プライマリ・ケア実習』は、小児科指導医167名でスタートし、5年間に約600名の医学生が参加した。実習が好評であったことから、すぐに多くの大学がカリキュラムにクリニック実習を組み込むようになった。さらに実習希望者は初期研修医や看護学生まで拡がり、病児保育界にも浸透しつつある。 今後の課題は、①クリニック実習(各論)を補完する「少人数講義(総論)」の実践、②看護師などスタッフの、トリアージ看護に必要な「ピジュアル小児看護学教育」の確立である。</p>	
9月10日(日) 8:50～11:20 メインホール G3 + G4 (1階)	
特別シンポジウム 次世代へのバトン	司会: 横田 俊一郎 (横田小児科医院)、崎山 弘 (崎山小児科)
コメディカル分野・院内報ネットワークと医療保育ネットワーク活動 島田 康 (しまだ小児科)	
<p>学会には、年次集会、カンファランス、委員会、検討会(勉強会)などとともにネットワークという活動もあります。このネットワークの中で、コメディカルが主体となっているのが、院内報ネットワークと医療保育ネットワークです。これらのネットワークはともに、一般演題(展示発表)やWorkshop開催から始まっています。子どもの医療に関わっているいろいろな立場・職種の方が、話題(問題)を取り上げ・広く意見を募り・共通の話題として語り合いそして日々の活動に結びつけています。子どもたちのために質の向上や我々が我々でなければ・我々が行うべき研究(検討)を継続して行なってきています。この二つのネットワークが、なぜ発足し・どのようにして活動を始め・どんなことを行なっているかをお話ししたい。そして、客席に座っている皆様も、ステージに上り、既存の活動への参加、新しく活動を始める、など自分達でもパフォーマンス出来るという伝統のバトンを引き継いでほしい。</p>	

9月10日(日) 8:50～11:20 メインホール G3 + G4 (1階)	
特別シンポジウム 次世代へのバトン	司会: 横田 俊一郎 (横田小児科医院)、崎山 弘 (崎山小児科)
次世代へのバトン～メディカルスタッフの連携～	木下 博子 (ほじん薬局 (元大分こども病院薬剤室))
<p>本学会との出会いは第2回年次集会で、それから30年余り、活動の原点は、「患者さんのための小児医療は、医師だけが担うのではなく、コメディカルと一緒に」という故徳丸実先生のお話である。</p> <p>年次集会では、他院の方々と「〇〇はどうやっている？」とアイデアの交換をした。そこで、「もっと多くの仲間と意見、アイデア交換の場を」と考え、コメディカルミーティングを企画した。その後、職種別のミーティングを経てワークショップへと展開した。しかし、中心になられていた方の退職に伴い、WSが開催できなくなった職種もある。コメディカルのほとんどは被雇用者であり、それが学会活動の壁になっているところもある。</p> <p>シンポジウムでは、本学会のコメディカルの皆さんに、ぜひ、引き継いでいただきたいこと、また、薬剤師の皆さんには、病院・調剤薬局薬剤師の立場から感じていることをお伝えし、次世代の方への「バトンタッチ」としたい。</p>	

9月9日(土) 9:10～11:40 メインホール G3 + G4 (1階)	
シンポジウム 1 COVID-19 それぞれの視点からの教訓	司会: 中野 康伸 (中野こどもクリニック)
横浜市における小児 COVID-19 医療体制構築と課題への対応、今後の展望～統括実務担当者の視点から～	西村 謙一 (横浜市立大学附属病院 小児科)
<p>COVID-19は2019年12月に初めて、中国湖北省武漢市で報告された。2020年3月以降には欧米を中心に急速に拡大し、パンデミックに至った。神奈川県においては、2020年2月6日にダイヤモンド・プリンセス号が横浜港に着岸し、「災害」としてDMATを中心に搬送調整がなされた。3週間の搬送調整から得た経験により「神奈川モデル」が構築され、成人の医療体制の枠組みは3月下旬に完成した。しかし、この時点では小児の存在が考慮されておらず、県主要施設の小児集中治療医間で小児医療体制構築の必要性が認識された。4月上旬に4大学小児科長と県立こども医療センター院長による会議が開催され、それから約3週間で、小児科学会神奈川県地方会を中心に小児医療体制を構築した。</p> <p>本講演では当初の医療体制構築の過程、社会やCOVID-19臨床像の変化から生じる課題への対応、その時々を思いを共有したい。</p>	

9月9日(土) 9:10～11:40 メインホール G3 + G4 (1階)	
シンポジウム 1 COVID-19 それぞれの視点からの教訓	司会: 中野 康伸 (中野こどもクリニック)
コロナ禍における子ども施策の変遷	岩田 眞美 (横浜市こども青少年局)
<p>2020年から3年余り続いた新型コロナ対応の中で、子どもに関する行政の対応を振り返ります。想定外の感染拡大や長期化に応じて各種対策が講じられましたが、特に母子保健の分野では、妊娠期からの切れ目ない支援のために、対人サービスを欠かさないう判断や工夫が必要でした。乳幼児健診は、医療機関に委託した個別健診と、感染防止策を講じた区役所の集団健診を併用しました。「遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診(厚生省発行)」にもある通り、子どもの成長には、適切な時期に健診や予防接種を受けられ、保護者が不安や疑問を適時相談できる事が大切です。また、子どもの時間は大人とは違い、月齢・年齢ごとに様々な体験をすることで心身を発達させていくため、その機会の確保が重要であり、特に集団生活の経験は大きく影響しますが、一方で感染拡大リスクも大きく、対応に悩まされます。保育園でも休園判断や防止策など様々な苦労がありました。</p>	

9月9日(土) 9:10～11:40 メインホール G3 + G4 (1階)	
シンポジウム 1 COVID-19 それぞれの視点からの教訓	司会: 中野 康伸 (中野こどもクリニック)
専門家会議等の委員の立場として考えた小児の COVID-19	岡部 信彦 (川崎市健康安全研究所)
<p>人類は時々感染症の大流行に見舞われ、大きい犠牲を払いながら、その対策を進歩させてきている。近年でもAIDS、エボラ、SARS、パンデミックインフルエンザ、MERSと枚挙に暇がない。感染症が流行し始めると「子どもたちがまず危ない」「子どもたちの流行から大人に広がる」と考えられがちであるが、これらの多くは、まずは行動半径の広い大人での流行である。COVID-19は、発生当初小中高などの全国一斉休校などが行われたが、実際は大人社会の広がりであり、長寿社会の中での高齢者の重症化・死亡が目立つものであった。2023年1月の厚生労働省アドバイザリーボードでは「感染対策の合理性を考えるにあたっては、年代による特徴を考慮すべきである。ことに子どもにおいては、すこやかな発育・発達の妨げにならないような配慮が必要である。」との意見を提出しているが、これからは高齢者対策とともに、大人と違う子どもを視点においた対策も重要である。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 メインホール G3 + G4 (1階)	
シンポジウム 2 子どもと家族の関係性に着目した『こころの問題、愛着形成、発達障害等』への多角的な視点およびアプローチ	司会: 涌水 理恵 (筑波大学)、蜂谷 明子 (蜂谷医院小児科)
子どもと家族の関係性に着目した『こころの問題、愛着形成、発達障害等』への多角的な視点およびアプローチ	明和 政子 (京都大学大学院教育学研究科)
<p>日本では、サイバー空間とフィジカルの空間を高度に融合させた社会、Society 5.0が目指されています。新型コロナウイルス感染症の拡大が、この流れを一気に加速させました。Society 5.0では、利便性の向上、省力化(無駄のなさ)に価値がおかれています。しかし、これは完成した脳をもつ大人を前提としているにすぎません。哺乳類動物の一種であるヒトは、「密・接触」を基本とする環境に適応して進化してきた生物であり、他個体との身体接触なしには生存すらできません。とくに、生後早期の経験は脳と心の発達、さらには、その後の発達にも大きく影響します。大人にとっては一見無駄にもみえる多様な経験を積み重ねながら、ヒトの脳と心(人間らしさ)はゆっくり育まれていくのです。今、私たちが生きる社会、環境は未曾有のスケールで変化しています。今後、どのような未来を次世代人類に託していくべきなのか。皆さんとともに議論したいと思います。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 メインホール G3 + G4 (1階)	
シンポジウム 2 子どもと家族の関係性に着目した「こころの問題、愛着形成、発達障害等」への多角的な視点およびアプローチ 司会：涌水 理恵(筑波大学)、蜂谷 明子(蜂谷医院小児科)	
関係性を取り扱うことの難しさー家族遊戯療法という試み 川畑 友二(クリニック川畑)	
<p>児童精神科では最近まで発達障害の診断が席巻していたため、愛着の問題として捉えられることは少なかった。しかし、被虐待のケースも散見されるようになり、また M. Rutter によるルーマニアの孤児の研究や遺伝子のエピジェネティクスの概念から、発達に関する関係性の重要性が注目され始めている。しかし、一般的なペアレントトレーニングやプレイセラピーと親子並行面接では「言葉で伝える」ことの限界があるため、関係性への関与が困難になることもある。D. Starn は、妊婦や出産した女性が母性的な人に保護され、承認されたいと望む心理状態になるという「母性のコンステレーション」を指摘し、「良いお祖母さん転移」という言葉で育児への不安やストレスを抱えている母親、父親を支える存在の重要性を説いている。「孤立した子育て」は虐待の危険因子でもあるが、当院で行った「家族遊戯療法」を紹介し、親子の関係性にどのように関わるかという工夫について述べてみたい。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 メインホール G3 + G4 (1階)	
シンポジウム 2 子どもと家族の関係性に着目した「こころの問題、愛着形成、発達障害等」への多角的な視点およびアプローチ 司会：涌水 理恵(筑波大学)、蜂谷 明子(蜂谷医院小児科)	
WISC 知能検査の正しい理解：発達障害の理解に役立てるために 大六 一志(公認心理師)	
<p>WISC は世界的に使用されている知能検査であり、日本でも広く使用されている。しかし残念ながら、実施法や解釈に関する誤解、また、不適切な活用をしばしば見かける。そこで本講演では、WISC 知能検査の正しい理解と活用について説明する。たとえば、① ASD や ADHD に特有の WISC 結果パターンは存在せず、WISC の検査結果は ASD や ADHD の鑑別診断の参考にはならない。WISC は知能検査であるが、ASD や ADHD は知能の障害ではないからである。また、② WISC は全ての知能領域を網羅しているわけではなく、読み書きやその障害の原因となる能力、また、計算の基礎力などは、WISC で測定することはできない。これらの領域について調べるには、他検査とバッテリーを組む必要がある。さらに、③検査結果のグラフが凸凹であると「能力に偏りがある」と報告するのをよく見かけるが、これは正しくない。WISC-IV の標準化データでは 90% 以上、WISC-V ではほぼ 100% の受検者で、検査結果のグラフは凸凹である。他にも時間の許す範囲で、WISC に関する誤解を解きたい。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 メインホール G3 + G4 (1階)	
シンポジウム 2 子どもと家族の関係性に着目した「こころの問題、愛着形成、発達障害等」への多角的な視点およびアプローチ 司会：涌水 理恵(筑波大学)、蜂谷 明子(蜂谷医院小児科)	
子どものこころの診療における親子並行治療の実際 山崎 知克(浜松市子どものこころの診療所)	
<p>児童精神科診療では、子どものこころの問題と並行して親御さん(特に母親)の診療をすることが少なくない。演者が勤務する診療所(当院)では毎年子どもの初診数(約 700 名)のうち 15～20%の保護者にカルテ作成して薬物療法を含めた親子並行治療を実施している。当院の初診時間診では毎年 60～70%の家庭で保護者の被虐待歴、子どもへの虐待、保護者の精神障害、DV など家庭機能の脆弱性が見られている。子どものこころの診療では保護者の協力が不可欠となるが、親自身がこころの問題により生活に支障がある際には保護者の治療や支援が必要となる。平成 29 年度に親子並行治療となった 129 名の診断内訳では PTSD 20.2%、複雑性 PTSD 13.2% であり、同年の子どもの PTSD 診断は 19 名(2.9%) であり、概して保護者の方が重症化していることが判明した。当日は親子並行治療の進め方をお示しすると共に、当院における逆境的小児期体験(ACEs)スコアの検討、精神科訪問看護についても報告予定である。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 G401 + G402 (4階)	
シンポジウム 3 新型コロナウイルス感染症と Vaccine Hesitancy 司会：太田 文夫(おた小児科)、片岡 正(かたおか小児科クリニック)	
新型コロナウイルス感染症流行が国内の vaccine hesitancy に与えた影響 勝田 友博(聖マリアンナ医科大学小児科教室)	
<p>2020 年以降、人類は新型コロナウイルス感染症 2019 (COVID-19) のパンデミックおよびそれに伴う COVID-19 ワクチンの緊急接種を経験した。COVID-19 ワクチンは、かつてないスピードで承認がなされ、実際に短期間で多くの国民への接種がなされた。その結果、実際に多くの人の健康と命を救う結果となったが、一方で、皮肉にもその迅速性が長期安全性の欠如という新たな不安を生む結果となり、また使用経験が乏しい mRNA ワクチンであったことも相まって、一部の国民においては vaccine hesitancy が発生した。特に国内における小児を対象とした COVID-19 ワクチン接種率は低迷している。小児においてはさらに COVID-19 流行翌年の 2021 年以降、麻しん風しん(MR) ワクチンをはじめとした COVID-19 ワクチン以外のワクチン接種率低下が問題視されつつある。本シンポジウムでは、COVID-19 の流行が特に国内の小児およびその保護者に発生した vaccine hesitancy に与えた影響に関して皆様と議論させていただき、外来診療時における適切な対策を協議させていただきます。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 G401 + G402 (4階)	
シンポジウム 3 新型コロナウイルス感染症と Vaccine Hesitancy 司会：太田 文夫(おた小児科)、片岡 正(かたおか小児科クリニック)	
新型コロナワクチンの国内外の有効性と安全性の評価 菅谷 明則(すがやこどもクリニック/NPO 法人 VPO を知って、子どもを守る会の会)	
<p>Vaccine Hesitancy の要因の一つには予防接種に対する信頼の低下がある。これにはワクチンそのものに対する信頼、接種する医療関係者に対する信頼、ワクチンの開発、製造、承認、推奨の過程に対する信頼などが含まれる。この中でもワクチンに対する信頼、有効性と安全性が大きく関与する。パンデミック時は接種対象者は多く、対象年齢も広い。接種開始早期に急激に接種数が増加する可能性もあり、さらに新型コロナワクチンは新しいモダリティのため、有効性と安全性を迅速に科学的に評価するシステムが必要である。また、接種率の向上のためには評価された有効性と安全性の情報を接種対象者、保護者、接種医療関係者に広く直接(メディアを介さず)に周知するシステムも必要である。日本の有効性と安全性の評価の現状を米国の状況と比較し、現在の Vaccine Hesitancy との関連、今後の課題などについての私見をお話する予定である。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 G401 + G402 (4階)	
シンポジウム 3 新型コロナウイルス感染症と Vaccine Hesitancy	司会: 太田 文夫 (おおた小児科)、片岡 正 (かたおか小児科クリニック)
小児科医にも潜んでいる Vaccine Hesitancy ～なんとなく納得していませんか?～	藤岡 雅司 (医療法人ふじおか小児科/NPO 法人 VPD を知って。子どもを守ろうの会)
<p>国内における新型コロナワクチン接種は、成人の高い接種率にも関わらず、12歳未満の接種率は極端に低迷した。演者のクリニックでも対象小児の保護者には繰り返し説明・啓発・勸奨を尽くした。しかし、まったく受ける気のないような保護者のいかに多かったことか。定期接種では100%近い接種率であるにも関わらず、である。</p> <p>では、なぜこのようなことになってしまったのだろう。国・自治体、マスコミにも責任の一端はあるだろう。しかし、子どもたちや保護者と一番近いところにいる私たち小児科医はどうだっただろう。小児の新型コロナウイルス感染症を軽く考える、新型コロナワクチンを不要と思わせるなど、小児のワクチン接種が進まなくてもなんとなく納得していなかったらどうか。</p> <p>講演では、専門家も含めた小児科医の過去の言動を振り返り、小児科医に潜む Vaccine Hesitancy、その闇の世界を少しでも解き明かしたい。接種忌避が他の定期接種に拡散することを防ぐためにも。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 G401 + G402 (4階)	
シンポジウム 3 新型コロナウイルス感染症と Vaccine Hesitancy	司会: 太田 文夫 (おおた小児科)、片岡 正 (かたおか小児科クリニック)
医師会、行政、メーカーとの連携と問題点	峯 真人 (医療法人自然堂峯小児科)
<p>3年半前 COVID19 パンデミック宣言から約1年後に、臨時接種という形で慌ただしくワクチン接種が開始された。しかしこの時点では日本人に対する有効性や安全性に関するデータはなく、日本では一般的でない筋肉注射による接種、大規模会場での集団接種の実施、また歯科医師、臨床検査技師、救急救命士などによる接種の承認など、異例すくめの接種対策が行われた。当然のことながら接種現場の準備や実施上の混乱や間違い接種の発生は想定され、この混乱は一般のワクチン接種への不安や不信、接種控えなどに結びつくと予想された。接種開始前と接種開始後の各時期において、混乱や間違いを防ぐための各方面と協力しての資料作成や、周知などを短時間で実施することが急務となった。本シンポジウムでは混乱の回避、間違いの予防などを目的とした資料作成や周知の経緯及び、混乱対応と接種控え対策などについて言及する。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 G314 + G315 (3階)	
シンポジウム 4 小さく生まれた赤ちゃんのクリニックでの子育て支援	司会: 田中 秀朋 (あかちゃんこどものクリニック)、在本 祐子 (上大岡こどもクリニック)
家族の絆をつなぐための援助	藤塚 真希 (横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻)
<p>低出生体重児は NICU への入院や治療に伴い、家族とのかかわりが制限されてしまう。これは、家族との相互作用の積み重ねによる愛着形成を難しくするため、NICU では 24 時間面会やカンガルーケアなど様々な支援が行われている。家族も子どものケアと一緒に参加する“ファミリーセンタードケア”も注目されており、NICU 入院中であっても家族が家族として過ごせるようにすることが大切である。また、NICU 退院を見据えて、育児手技の獲得や多職種カンファレンスなどの退院支援も行われている。</p> <p>しかし、NICU を退院した後も、家族は不安な思いを抱いており、様々な支援を検討していく必要がある。低出生体重児が地域のクリニックを診察・健診・予防接種のために受診することは珍しくない。クリニック受診時に想定される場面について、「どのような声かけができるのか」「どのような点に注意するべきなのか」など、今後の援助につなげる機会にしたい。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 G314 + G315 (3階)	
シンポジウム 4 小さく生まれた赤ちゃんのクリニックでの子育て支援	司会: 田中 秀朋 (あかちゃんこどものクリニック)、在本 祐子 (上大岡こどもクリニック)
370g の出産と子育て～リトルベビーハンドブック作成への想い～	坂上 彩 (かながわりトルベビーサークル pena)
<p>2018年に24週370gの第1子となる女児を出産した経験を元に、2021年に神奈川県で生まれた低出生体重児の家族会「かながわりトルベビーサークル pena」を設立する。</p> <p>この家族会では、当事者の家族同士や地域社会との繋がりを深めるために、交流会や写真展開催等の活動を行っている。</p> <p>また、正産産を基準とした母子手帳の使い難さに涙したことから、同じように苦しむ母親が一人でも減ることを願い、低出生体重児の母親の心に寄り添うことを目的とした母子手帳のサブブック「リトルベビーハンドブック」の作成を神奈川県へ要望し、当事者としてハンドブックの作成に携わっている。</p> <p>今回のシンポジウムでは、現在に至るまで消えない早産への罪悪感や NICU 入院中の想い、退院後の生活で困ったこと、当事者の母親達との交流で感じたこと等、当事者家族の想いをお伝えしたい。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 G314 + G315 (3階)	
シンポジウム 4 小さく生まれた赤ちゃんのクリニックでの子育て支援	司会: 田中 秀朋 (あかちゃんこどものクリニック)、在本 祐子 (上大岡こどもクリニック)
早産・低出生体重児の NICU 入院中から退院後の支援	豊島 勝昭 (神奈川県立こども医療センター-新生児科)
<p>日本は超低出生体重児であっても救命率は9割近くに上昇し、脳性麻痺は1割未満に減少したが、新たな課題が明らかになりつつある。極低出生体重児の約3分の1にいわゆる「発達障害」と呼ばれる発達の特性や発達遅滞がある。医療的ケア児は増加している。早産・低出生体重児の家族の「障害感」は疾患や後遺症といった医学的なく重症度とは必ずしも一致しない。早産・低出生体重児は成長と共に、自宅、療育、保育園・幼稚園、学校と生活の場所や支援者は変わり、家族は各地域において支援者との関係構築で「障害感」に直面しうる。継続的に心身の健康を見守れる小児医療の役割を実感する。早産・低出生体重児の家族が障害感少なく、地域社会で生活していくには、成長・発達の特性、患者家族の障害感などを共有しながら、地域の医療・保育・保健・療育・教育・福祉のそれぞれの尽力と連携で支えていきたい。</p>	

9月10日(日) 8:50～11:20 G314 + G315 (3階)	
シンポジウム 5 小児科外来の「その先」を考えてみませんか ～発達障害者の就労支援施設での経験をお聞かせして～ 司会：太田 文夫 (おた小児科)	
障害者のある子の就労における課題	平林 計重 (NPO 法人障害者の就労を支援する会)
<p>発達障害のある子の就労時の課題の第一は2次障害の克服です。しかし、それだけが就労時の問題ではありません。学齢期に障害を原因としていじめや差別を受けることによる、精神的な症状、学習の遅れや偏り、保護的な養育から依存性や経験不足等を抱えます。こうしたことが、就労に必要な意欲や態度の形成、就労のための知識や技能の獲得に大きな影響を与え、就労を困難にしています。就労現場では、以下のような問題が起きています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2次障害克服の課題 2 学齢期に生じる様々な課題 3 障害から生じる課題 4 働く意欲・態度・知識・技能の形成の課題 	

9月10日(日) 8:50～11:20 G314 + G315 (3階)	
シンポジウム 5 小児科外来の「その先」を考えてみませんか ～発達障害者の就労支援施設での経験をお聞かせして～ 司会：太田 文夫 (おた小児科)	
カフェ・ハーモニーを利用する人たちの状況	角口 由紀子 (NPO 法人障害者の就労を支援する会)
<p>発達障害のある人といってもその困り感人はそれぞれです。当施設を利用する以前の生活は・・・①在宅になり、居場所をなくしている。②普通高校や大学まで出たのに友達を作ることができず、コミュニティを持ってない。③一度は就職したが、続かない。など、主にそんな人々が当施設を利用しています。そんな人々が通ってみようと思えるように一般社会の就労場所より仕事内容のハードルを低くしている当施設ですが、問題なく働ける人とここでも働くことが困難な人がいます。その差は何か。そこには、学齢期の過ごし方が影響しているように思われます。特別な支援を受け、障害特性の受容ができていない人は困難の克服を目指すことができますが、学齢期に適切な支援がなく過ごした人は、傷害受容も難しく、一般就労を目指すまでに、かなり長い年月を要しています。</p>	

9月9日(土) 9:10～10:20 G301 + G302 (3階)	
みんなで考えよう 1 授乳・離乳の支援ガイド再考 ～なぜ卵黄が先なの？～ 司会：福岡 圭介 (福岡小児科アレルギー科)	
乳児に卵黄、卵白を食べさせる時期のアンケート調査	西村 龍夫 (にしむら小児科)
<p>我々は2023年3月から4月までの2ヶ月間、生後9-11か月の児の保護者を対象に、補完食での卵白、卵黄の与え方に関するウェブアンケートを多施設共同で行った。回答数は280件であった。結果、保護者の85.7%は卵黄を先に与えたと回答し、理由としては離乳食のガイドラインに記載があるからが最多であった。卵黄を開始した月齢は6 [6-7] (Median[IQR]) であり、卵白は8 [7-8] と卵白の方が遅かった (p<0.001)。調査時に3.3%は卵黄を、10.6%は卵白を未だ与えていないと回答した。小児アレルギー学会から、鶏卵アレルギー発症予防のため皮膚炎のある児は生後6か月から微量の全卵を食べさせた方がよいという提言が出ているが、64.2%が知らないと答えた。提言を知らないと答えた群では、乳児湿疹があっても離乳中期(生後7-8か月)に卵白摂取を始めておらず、ガイドラインよりも卵白摂取が遅れていた。</p>	

9月9日(土) 9:10～10:20 G301 + G302 (3階)	
みんなで考えよう 1 授乳・離乳の支援ガイド再考 ～なぜ卵黄が先なの？～ 司会：福岡 圭介 (福岡小児科アレルギー科)	
『なぜ卵黄が先か：日本の離乳指導の歴史から解き明かす』	瀬川 雅史 (医療法人社団のえる小児科)
<p>わが国初の離乳の指針は、1958年(昭和33年)の文部省「離乳基本案」で、卵黄は生後5か月から、全卵は7か月頃からと記載されている。卵黄が先である理由は、アレルギー症状の発生が心配されたからであった。わが国では当時アレルギーはほとんど問題になっていなかったが、卵アレルギーが多かった米国の離乳の指針にならったものであった。</p> <p>「離乳基本案」が出る以前、明治～昭和20年代までの離乳指導について、小児科教科書や育児書28冊を調べたところ、24冊で卵黄を先に与えるように推奨されていた。その理由として、卵黄は栄養価が高く消化吸収が良い、卵白は消化が悪いということが記載されており、アレルギーに関する記載はない。昭和30年頃に行われた離乳に関する実態調査で、98.7%の母親が卵黄を先に与えているという結果が示されており、わが国では「離乳基本案」が出る前からすでに「卵黄が先」という離乳法が普及していたと考えられる。</p>	

9月9日(土) 14:30～15:40 G301 + G302 (3階)	
みんなで考えよう 2 乳児のスキンケアはどこまで必要？ 司会：橋口 可奈 (星川小児クリニック)	
スキンケアのエビデンスはどこまで分かっている？	福家 辰樹 (国立成育医療研究センターアレルギーセンター)
<p>乳児期のアトピー性皮膚炎やバリア機能障害がその後の食物アレルギーや喘息、アレルギー性鼻炎の発症リスクになり得ることが数多く報告され、かつてハイリスク乳児への生後早期からの保湿スキンケアがアトピー性皮膚炎発症を30～50%程度予防するというパイロット研究が報告された。しかし近年の大規模ランダム化比較試験では有意な予防効果は認められない結果が報告されたばかりか、保湿剤使用が頻度依存性に食物アレルギー発症リスクを増加させるといった報告も登場し、塗布前に保護者は手を清潔にすべきとの考察もなされている。一方、セラミドリッチな保湿剤の頻回使用による食物感作の抑制効果を報告するものもあり、単に保湿という定義で括られない外用薬の内容全体を考慮する必要性も示唆される。現在もスキンケアが感作のリスクに影響を与えるかについて十分なエビデンスがあるとは言い難いが、本講演ではその一端を紹介させて頂きたい。皆さまの日常診療におけるご判断の一助となれば幸いです。</p>	



9月9日(土) 14:30～15:40 G301 + G302 (3席)	
みんなで考えよう2 乳児のスキンケアはどこまで必要?	司会: 橋口 可奈 (星川小児クリニック)
乳児のスキンケアのアンケート調査	西村 龍夫 (にしむら小児科)
<p>我々は2023年3月から4月までの2ヶ月間、生後9-11か月の児の保護者を対象に、乳児の皮膚炎とスキンケアに関するウェブアンケートを多施設共同で行った。回答数は280件であった。71.4%は乳児湿疹があったと回答していたが、アトピー性皮膚炎と診断されていたのは3.6%であった。ステロイド軟膏による治療は65.7%が経験していた。過去にスキンケアの指導を受けたことがあると答えたのは67.1%であり、現在スキンケアを行っていると答えたのは93.6%、その中で96.6%が1日1回以上のスキンケアを行っていた。使用している薬剤はワセリンが60.9%ともっとも多く、次いで市販の保湿剤、ヒルドイド®等のヘパリン類似物質であった。スキンケアの理由としては、皮膚の肌荒れ、かさつきを防ぐのが98.9%と大多数を占め、将来のアトピーを防ぐために45.2%、食物アレルギーを防ぐのが29.9%であった。保護者のスキンケアに対する意識は高いが、その医学的な理由に関しては理解が進んでいないと思われた。</p>	
9月9日(土) 9:10～10:10 G401 + G402 (4席)	
教育講演1 【専門医：小児科領域別講習】(現地のみ)	司会: 原木 真名 (まなこどもクリニック)
小児の腹痛を超音波で診る～「壁の向こう側」が見えてくる～	河野 達夫 (東京都立小児総合医療センター 放射線科)
<p>小児の腹痛診療では超音波検査が非常に有用である。触診や聴診などでは全貌がつかめない腹部を、簡便に低侵襲的に短時間で評価することが可能である。重篤な疾患の代表である中腸軸捻転、内ヘルニアなどの急性小腸閉塞では、確定診断は困難でも病態の把握が容易であり、緊急度を判断することができる。頻度の高い急性疾患である腸重積や急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症では、超音波のみで確定診断が可能であり、高次医療施設への転送判断を速やかに下すことができる。急性胃腸炎、便秘など日常的に遭遇する疾患では、内科的診療の妥当性を判断することに有用である。また触診で確信が持てない肝腫大、脾腫、腹部腫瘤などではその原因を明確化することが可能である。日常の外来診療で、身体所見に引き続き超音波検査を用いることで、腹壁の「壁の向こう側」を見ることが可能となる。</p>	
9月9日(土) 10:40～11:40 G401 + G402 (4席)	
教育講演2 【専門医：小児科領域別講習】(現地のみ)	司会: 西巻 滋 (横浜市立大学)
川崎病の原因論 60年の時空を超えたミステリー	伊藤 秀一 (横浜市立大学大学院 医学研究科 発生小児医療学)
<p>1961年1月、川崎富作先生が初めての川崎病患者に遭遇されてから、既に60年の時を経たが、今なお川崎病の真の原因は不明なままである。川崎病の原因論は、小児医学の最大のミステリーのひとつと言っても過言ではないだろう。過去の研究の成果として、原因となりうる可能性を有する数種の感染症、人種や疾患感受性遺伝子、炎症性サイトカインを軸にした免疫異常などが明らかにされたのみであり、川崎病の発症から病態完成に至る過程は、数多くのピースを欠いたパズルの様である。私たちは環境省が主導する10万人を対象にした前方視的出生コホートであるエコチル研究で、1歳までの川崎病発症に、妊娠中期から後期の母親の葉酸サプリメントの摂取不足、妊娠中の母親の甲状腺疾患の合併、児の同胞の存在の3つの因子が関連する可能性を明らかにした。現在、母体血の葉酸濃度を用いた更なる検証を進めている。本講演では私たちの研究成果を含め、これまで発表された数々の病因論に関する研究を紹介するとともに、川崎病の発見の歴史と川崎先生の病因解明への想いについても改めて触れてみたい。</p>	
9月9日(土) 16:00～17:00 G303 (3席)	
教育講演3	司会: 瀬尾 智子 (緑の森こどもクリニック)
ここまでわかる成長曲線	伊藤 純子 (虎の門病院)
<p>子どもは日々成長しており、正常範囲を逸脱した成長の異常は、子どもが何らかの問題を抱えているサインです。乳幼児健診や保育園・学校の健診で子どもたちは身長・体重を測定していますがこれを成長曲線(身長曲線、体重曲線、肥満度曲線)にするだけで読み取れる情報が格段に変わり、問題の早期発見の手がかりとなります。成長曲線からわかることとして、「成長曲線に基づく児童生徒等の健康管理と指導・支援実践マニュアル」には次のような項目があげられています。・適正な成長の確認・極端な成人低身長になる可能性のある児童生徒の早期発見と早期対応・病気が原因である肥満の早期発見と早期対応・単純性進行性肥満の早期発見と早期対応・病気が原因であるやせの早期発見と早期対応・いじめや虐待を受けている児童生徒の発見にも役立つことがある。成長曲線の成り立ちや正確な書き方、どのような成長をしている子どもに対してより詳しい検査を行った方が良いのか、などを具体的に話したいと思えます。</p>	
9月10日(日) 10:20～11:20 G401+G402 (4席)	
教育講演4 【専門医：小児科領域別講習】(現地のみ)	司会: 西巻 滋 (横浜市立大学)
食べることを嫌がる乳幼児と養育者への支援 神話から科学的な対応へ	大山 牧子 (神奈川県立こども医療センター)
<p>本講演では、食べることを神話、介入を要する偏食の見極め、外来でできる具体的な対応について述べる。乳幼児健診や小児科外来など時間が限られる時でも使える6項目からなる小児摂食障害のスクリーニング方法も紹介する。</p> <p>食べることに困難を抱える子どもの保護者に第一線に対処する医療者ができる提案は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が子どもに食べさせるための一切の強制をやめること。 ・親がパラエティに富む食事を楽しむ様子を子どもと同じ食卓で見せる。 ・食事を含む日常生活リズムを年齢相当にし、だたら食べ、ながら食べをなくす。 <p>医療者がすべきことは：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性機能的便秘、扁桃肥大・慢性鼻炎などの上気道閉塞を見つけて適切に治療する。 ・栄養面で介入が必要な場合は、成長曲線から外れてきた場合は必ずまたは0-1歳で、固形食をほぼ食べていない場合は鉄欠乏を2歳以降で食べる品数が極端に少ない場合(20品目以下)は鉄、亜鉛、ビタミンA, B1, C, D, 欠乏を疑いチェックする。 ・食べるという微細な運動のためには体幹の安定が必須：椅子の調整ができていないか確認する。 	

9月10日(日) 13:00～14:00 G401+G402 (4階)	
教育講演 5	司会：涌水 理恵 (筑波大学)
子どもの発達を「感覚」から細解く ～敏感さんと鈍感さんの子育て支援～	高橋 香代子 (北里大学作業療法学専攻)
<p>日々の診療において、こんな気になるお子さんに出会うことはありませんか。診察室の椅子をぐるぐる回す子、冬なのに半袖・短パンの子、など。これらの背景には「感覚」の過敏や鈍麻があると考えられています。例えば、椅子をぐるぐる回すのは、前庭覚が鈍感なので感覚刺激を探求して満たそうとしているのかもしれませんが。また、半袖・短パンの子は、触覚が過敏で特定の服の感覚が苦手なのかもしれません。</p> <p>このように、子どもたちの不思議な行動の背景には、感覚の受け取り方(感覚調整能力)が深く関わっています。感覚は体や心の発達に大きな影響を与えることが示されており、感覚に焦点を当てた療育(感覚統合療法)も一定の効果が認められています。</p> <p>本講演では、さまざまな症例を通して、感覚と発達の深い関係性について紹介します。感覚について知ることによって、子どもの理解を深め、対応のヒントに繋げていただければ幸いです。</p>	
9月10日(日) 13:00～14:00 G301+G302 (3階)	
教育講演 6 【専門医：小児科領域別講習】(現地のみ)	司会：伊藤 純子 (虎の門病院)
育児ビッグデータからみた乳児の成長と発達	鳴海 覚志 (慶應義塾大学医学部小児科学教室)
<p>2010年頃まで、医療やヘルスケアに関わる情報の大部分は医療機関で収集・蓄積されてきた。また、月経周期や育児日誌などを個人単位で記録する場合もあったが、デジタル化された情報とはなっていなかった。ところが2007年にiPhoneがローンチされると、スマートフォンの世帯保有率は2010年に9.7%、2015年に72.0%と爆発的な普及を見せ、これらヘルスケアに関わる情報が「家庭で」「リアルタイムに」スマートフォンアプリで記録されるようになった。この時流を受け、我々は2017年から育児メモアプリ「パパッと育児@赤ちゃん手帳」を運営する株式会社ファーストアセントと、2018年から女性ヘルスケアアプリ「ルナルナ」を運営する株式会社エムティーアイと、それぞれ共同研究を行い、育児や月経周期に関わるビッグデータ解析を行ってきた。本講演ではこれらの研究を通じ明らかとなった知見について紹介する。これまで疾病の研究に重心を置いてきた医学において、ある種の盲点となってきた健康の幅(多様性)や影響因子についての話題を提供したい。</p>	
9月9日(土) 9:10～10:20 G303 (3階)	
セミナー 1	司会：田中 秀朋 (あかちゃんとこどものクリニック)
小児科医と保護者がともにつくる「信頼の医療」へ～ここ1年の新たな展開と今後の展望～	阿真 京子 (特定非営利活動法人 日本医療政策機構)
<p>ここ数年の環境や時代の変化によって、保護者の「変わったもの変わらないもの」をお伝えする。そして「子どもの医療のかけ方」からはじめる、医療者と保護者の関係構築についてお話し、ここ1年ではじまった新たな展開～動き出している神奈川県と京都府の取り組み～と今後の展望についても発表し、全国的な流れへと発展させていく一助としたい。また現在本邦において大きな問題となっている「不登校」問題。その予防にもつながる取り組みとして、区立小学校の授業中に「いつでもだれでも来ていい居場所事業」を運用している。公立小において何が出来るか、ともに考える場としていく。</p>	
9月9日(土) 10:30～11:40 G303 (3階)	
セミナー 2	司会：江田 明日香 (かかも藤沢クリニック)
医療的ケア児の保育園での生活	遠藤 明子 (社会福祉法人そだちの杜 ひびき金港町保育園)
<p>2017年、一組の親子が私たちの保育園を訪れた。重症新生児仮死による脳性麻痺、経管栄養(胃瘻)による医療的ケアが必要であったこのお子さんは、翌年4月入園をした。その後、医療的ケアが必要なお子さんの入所希望が次々とあり、吸引、酸素療法、経管栄養(経鼻・胃瘻)、血糖値測定、気管切開管理などのケアが必要な子どもたちを受け入れた。</p> <p>以来、ケア児への楽しい遊びと生活の場の提供、自らの命や人権を大切にしていこうという子どもたちへの教育や保護者支援を実践してきた。その実践は、どの子にも等しく保育を行い、一人一人を大切にしながら寄り添っていくという職員の意識と保育の質の向上、そしてケア児たちの豊かな成長につながっていった。施行されて間もない医療的ケア児支援法のもと、集団の中で仲間と共に育ち成長していく子どもたちの報告を通して、その意義を明らかにするとともに、受け入れへの課題解決の一助を担うことができると考えている。</p>	
9月9日(土) 15:50～17:00 G403 (4階)	
セミナー 3	司会：中野 康伸 (中野こどもクリニック)
今こそ生かそう！ こどもの心と身体に効く漢方	森 蘭子 (森こどもクリニック)
<p>コロナ禍で、子どもたちの心と身体は、大きな変化にさらされました。一般診療でも、心の問題を相談される機会が増え、改めてこどもの心の不調に多くの小児科医がとりくむことが必要であると感じます。東洋医学では、心身一如といって、心と身体は通じ合っていて、お互いに影響を与えるという考え方があります。漢方薬は、心と身体に働きかけ、不調を整えます。今回は、具体的な訴えや症状から、どのような漢方薬を用いるのか、また漢方治療を成功させるコツなどを交えて、こどもの心の不調へ漢方でアプローチするノウハウを解説します。涙もろくなる、怖い夢を見る、眠れない、ドキドキする、怒りっぽい、パニックなどの心の症状、また、心の不調がベースにあって、おなか痛、頭痛、疲れやすいなどの体の不調を伴う場合も、漢方薬は有効です。漢方薬で、多くのお子さんが笑顔になることを願います。</p>	

9月10日(日) 10:10～11:20 G403(4階)	
セミナー 4	司会：中野 康伸(中野こどもクリニック)
楽しく学ぼう！こども漢方入門	坂崎 弘美(さかざきこどもクリニック)
<p>小児科領域でも漢方薬が使われるようになり、興味を持つ方が増えています。しかし、「詳しく知らない、特別な勉強をしないといけない」と敬遠されてしまう方も多いのではないのでしょうか？さらに、「漢方薬ってほんとに効くの？まずいのには子どもが飲めるの？」と思う方もいらっしゃると思います。実は、私もそう考えていたのです。しかし、実際は小児のプライマリケアに漢方薬はとても役に立ち、今では、外来ではなくてはならない存在になっています。まずは、漢方薬について知ること、少しでも興味を持っていただくことが、第一歩だと思います。このセッションでは、漢方薬の基礎知識を超簡単に、さらに楽しく解説します。また、知って得する代表的な処方について、さらに、こども漢方に必須である服薬指導についても説明します。ぜひ多くの方々に、漢方薬を身近に感じて頂いて、こども漢方のファンになって頂ければと思います。</p> <p>Let's enjoy kampo !</p>	

9月10日(日) 8:50～11:20 G303(3階)	
セミナー 5 メディカルスタッフミーティング	司会：蜂谷 明子(蜂谷医院小児科)
小児科における接遇を学びましょう！	福田 智子(中北薬品株式会社)、蜂谷 明子(蜂谷医院)
<p>本セミナーでは、日常の接遇マナーを振り返るとともに、クレームの背景や相手の心理を理解し、クレームの初期対応時の基本ステップとスキルを確認します。「マナーとは相手に対する思いやりの気持ちが形になったもの」日常はもちろんのこと、ご家族の方から、苦情や不満が伝えられる際も、相手の気持ちに寄り添った対応をすることが大切です。クレーム対応という「問題解決」に注目がちですが、実は、相手から、最初に声をかけられたスタッフの対応が要になります。この「初期対応」において必要な「あいさつ」と「傾聴」のスキルについてワークを行い、相手の気持ちや状況を受け止めるポイントを確認します。また、身近な事例のロールプレイを通して、2次クレームを防ぎ、相手の満足度を上げる対応の習得を目指します。</p>	

9月9日(土) 14:30～17:00 G304(3階)	
委員会企画 1 園・学校保健委員会	
医療関係者が知らなかった保育園・幼稚園の現場の困りごとをよく知ろう	
須貝 雅彦 ¹⁾ 、田草 雄一 ²⁾ 、保足 昌之 ³⁾ 、田口 奈美 ³⁾ 、富木 慶子 ⁴⁾ 、鈴木 綾子 ⁵⁾	
1) 医療法人社団おひさまクリニック 2) ほよほよクリニック 3) 土と愛子の子の家保育所第2 4) 太陽の子中野桜花保育園 5) 星川小児クリニック	
<p>我々小児医療関係者は保育園・幼稚園(園)と良好な連携を目指しつつも、自分たちの意図がうまく通じない、思うように進まないという経験を経験しますが、一方で子どもたちの生活の場である園について、我々はその現場をどの程度知っているのでしょうか。保育士が子どもの健康面の課題について現場で「困っていること」を自ら発表、発信し、まずそれに耳を傾けることで小児医療と園とのよりよい連携を目指すことを目的に園学校保健委員会がこのシンポジウムを企画しました。</p> <p>まず、園での課題である感染症対策やアレルギーなどのテーマごとに現場での「困りごと」の経験や意見を保育士が発表します。そして、会場参加者からの意見や質問は、スマートフォンを利用したテキストメッセージで司会者に送るという形にしました。これにより保育士のみならず、会場参加者も緊張せずに発言することができると考えます。</p> <p>さらに、医師から保育士に向けての簡潔なアドバイスも用意しました。</p> <p>何より子どもたちの生活の場である園についてよく知りたい、という皆さんはぜひ参加してください。現場の「声」を聞いて、あなたからの「メッセージ」も聞かせてください。</p>	
保護者を介さない保育園側の思いと医療側の思い	
保足 昌之(土と愛子の子の家保育所第2)	
<p>日々の子どもの育ちを見守り、保護者とともに近くで寄り添っている保育園。しかし、病気になった時には保育園でやれることは限られています。病気になってしまった、障害の疑いがあるかもしれない・・・そのような時には医療機関との連携が必要になってきます。</p> <p>その連携はほとんどの場合は直接のやり取りではなく、保育園側と医療側の間にいる保護者になります。子どもの状況とともに保育園での状況を保護者が医療に伝え、医療から伝えられたことを保護者を介して保育園には伝えられることがほとんどです。そのような状況が多い中で、保護者から伝えられたことについて、お互いが「ん？」とってしまうことがあるのではないのでしょうか？子ども、保護者とのやり取りを日々行う保育園として、現場で感じている病気や障害のことなど直接医療現場で働いている人たちに伝えられる機会というのはほぼないので、この機会に保育現場と医療現場、双方の理解が少しでも進んだら嬉しいです。</p>	

9月9日(土) 14:30～15:40 G303(3階)	
委員会企画 2 生涯学習委員会	
司会：藤森 誠(藤森小児科)	
e-ラーニングのすすめー自分の知識の確認と立ち位置を知るー	
長井 健祐(長井小児科医院)	
<p>2019年10月にweb版「e-ラーニング外来小児科Q & A」がスタートし4年が経過しました。本システムは、成人学習の主流論である“自らの診療の振り返りと立ち位置を確認する”ことができるように構築されています。実地臨床の場ですぐに役立つ問題を提供しており、単に正解を導くことや知識を得るだけでなく、解説文と参考資料を通して自己学習を進めることができます。他の利用者の回答率を知り、各問題のコメント欄や談話室形式での会員間の意見交換も可能で、自分の診療を見つめ直すことができます。スマートフォンなどモバイル機器でもアクセスできますので、スキマ時間を利用してアクセスしてチャレンジしてみましょう。本セミナーでは、会場の皆さんとWEB版アナライザーシステムを使いながら、「e-ラーニング外来小児科Q & A」の優れた効果と効果をお伝えできればと考えます。スマホ・タブレットをご持参の上ご参加ください。</p>	



9月10日(土) 16:00～17:00 G404 (4階)	
委員会企画 3 【専門医：共通講習】(現地のみ) 倫理講習会	
研究計画書における倫理的配慮のポイント ～倫理審査委員会の視点から～	三品 浩基 (神戸市こども家庭局)
<p>人を対象とする医学系研究を実施する場合、あらかじめ研究計画書を作成し、倫理審査委員会の承認を得ることが一般的な手続きとなっています。そのため、研究者は、定期的に研究倫理の研修を受け、研究に関する法令・倫理指針に精通していることが求められています。</p> <p>一方で、本邦の倫理指針は数年ごとに改正が行われており、動向に注目しておく必要があります。現在の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」は2021年に施行され、その後、2022年に一部改正、2023年にも一部改正が行われています。最近の倫理指針の改正点を踏まえつつ、インフォームド・コンセント、個人情報の保護、利益相反の管理等、とくに倫理審査のポイントとなる手続きを中心に解説させていただきます。</p> <p>また、いくつかの研究事例を題材として取り上げ、さまざまな倫理的配慮を要する理由や背景についても理解しやすいように努めたいと思います。</p>	
9月10日(日) 8:50～10:00 G401+G402 (4階)	
委員会企画 4 研究部会・診療ガイドライン委員会 共同企画 「診療に生かす、臨床研究とガイドライン」 司会: 西垣 佳織 (聖路加国際大学大学院)、杉村 徹 (杉村こどもクリニック)	
グラム染色を診療に導入した結果を臨床研究につなげて	前田 雅子 (まえだ耳鼻咽喉科クリニック)
<p>私たちは2004年から抗菌薬の処方根拠にグラム染色を活用していますが、とりわけ染色画像をリアルタイムに保護者に提示・説明する取り組み(供覧)をはじめた結果、抗菌薬の種類、件数ともに大きく変化しました。供覧が保護者の心情にどのように影響したのか、その理由を明らかにしたくとも不明のままです。しかし、日本外来小児科学会年次集会で開催された質的研究ワークショップに参加したことをきっかけに、心情の変化を質的研究で解析できることを知りました。質的研究方法検討会に参加し、専門の先生方のご協力をいただき、意識変化を解析するためのプロトコル作成、本学会の調査研究方法検討会および倫理委員会による承認を経て、臨床研究を実施しました。その結果、抗菌薬使用に対する保護者の認識は、複数の局面を経て変化したことが解明され、質的研究の有用性を実感しました。私たちの取り組みと研究を例に、質的研究の有用性をお話しします。</p>	
9月10日(日) 8:50～10:00 G401+G402 (4階)	
委員会企画 4 研究部会・診療ガイドライン委員会 共同企画 「診療に生かす、臨床研究とガイドライン」 司会: 西垣 佳織 (聖路加国際大学大学院)、杉村 徹 (杉村こどもクリニック)	
診療に生かす、臨床研究とガイドライン – ここまで変わったガイドラインの作り方・使い方	伊藤 純子 (虎の門病院)
<p>「診療ガイドライン」は「健康に関する重要な課題について、医療利用者と提供者の意思決定を支援するために、システマティックレビューによりエビデンス総体を評価し、益と害のバランスを勘案して、最適と考えられる推奨を提示する文書(MINDs)」と定義されています。日常診療はこのような「選択」の連続です。逆に言えば「選択の余地がない」所にガイドラインは必要ありません。病気のスクリーニング、診断、対処法、効果、予後までの全過程でどのような選択を行ったらよいのかを、吟味された証拠を基に示したものが、「エビデンスに基づいたガイドライン」で、選択項目を「クリニカルクエスチョン」として並べているので、読みにくいと感ぜられる面もあります。それを補うために、診療全体の流れを「スコープ」として示し、最初に解説を入れているガイドラインが多くなっています。選択に際しては、患者の好みや地域の事情も反映させる必要があり、患者や市民を含めたいろいろな背景を持ったメンバーが参加する必要性も強調されています。現在作成進行中のガイドラインについてもお話ししたいと思います。</p>	
9月10日(日) 8:50～11:20 G301+G302 (3階)	
委員会企画 5 授乳と補完食に関する検討会主催 Special Interest Group 「“一歩踏み込んだ”授乳と補完食に関する情報」	
司会: 井上 佳也 (井上こどもクリニック)、谷村 聡 (たにむら小児科)	
乳幼児の栄養とマーケティング	名西 恵子 (東京大学大学院医学系研究科)
<p>Lancet 誌は今年”Breastfeeding 2023”として特集を出し、先鋭化している乳幼児用ミルクのマーケティング手法を詳細に分析し、母子の健康への悪影響を明らかにした。乳幼児用ミルクの製造販売は巨大産業である。人工乳やフォローアップミルクの広告費は年55億ドルに上り、WHOの2年分の活動費を上回る。乳幼児用のミルクのマーケティングには、国際規程がある。WHO加盟国の74%が国際規程に基づく法整備をしているが、日本には法的規制がない。そのため国際規程違反のマーケティングは、我が国では大々的に行われている。Lancet 誌では、マーケティングは医療従事者を巻き込み、親の育児への不安や期待、医療への信頼を利用して行われることを明らかにした。本講演では、医療従事者がマーケティングに利用されるのではなく、母子を中心に据えたケアを実践するためにどのようなアクションが必要であるのかを考察する。</p>	
9月10日(日) 8:50～11:20 G301+G302 (3階)	
委員会企画 5 授乳と補完食に関する検討会主催 Special Interest Group 「“一歩踏み込んだ”授乳と補完食に関する情報」	
司会: 井上 佳也 (井上こどもクリニック)、谷村 聡 (たにむら小児科)	
混合栄養がいいって、ホント？	多田 香苗 (林間こどもクリニック)
<p>近年、混合栄養の方が、アレルギー予防や母の疲労軽減、父親の育児参加にとって有益であるとの主張を散見する。しかし、母親の授乳困難感、混合栄養の場合が最も多い。(厚生労働省「平成27年乳幼児栄養調査」)医学的に必要がない補足の理由として、母親の母乳不足感が挙げられ、それは、母親の自己肯定感の低下に繋がる可能性がある。また、母乳分泌の生理に基づかない補足は、二次的な母乳分泌不全を招き、早期の母乳育児の中止のリスクとなる。母乳育児の感染症などへの予防効果をはじめとする母子双方への重要性は、日本を含め多くの先進国で確認されている。母乳育児のメリットは、母子ともに量依存性であり、より長くより多く母乳を飲ませることが重要である。ここでは、UNICEF UK やアメリカ小児科学会(AAP)のなどの資料をもとに、適切な補足量の評価法、Paced Bottle Feeding、臨床の場での支援方法など「母乳を減らさない混合栄養」「なるべく母乳が長続きする混合栄養」の方法を述べる。</p>	

9月10日(日) 8:50～11:20 G301+G302 (3階)
委員会企画 5 授乳と補完食に関する検討会主催 Special Interest Group 「“一歩踏み込んだ” 授乳と補完食に関する情報」
司会：井上 佳也 (井上こどもクリニック)、谷村 聡 (たにむら小児科)
母乳育児を支援するー赤ちゃんの鉄欠乏を中心にー 富本 和彦 (とみもと小児科クリニック)
<p>母乳には非栄養素の側面と栄養素の側面があり、栄養素だけの議論に巻き込まれてはならない。栄養素としての母乳にはビタミンD (VD)と鉄の不足がある。まず出生後1歳まで天然型VD400IU/日の補充を行う必要がある。</p> <p>鉄欠乏と神経発達の間接的関係は、動物実験や観察研究では示唆されるものの、結論は出ていない。正期産の母乳栄養児では乳児期後期には母体から移行した鉄が枯渇し、適切な補完食が与えられない限り、57.3%が鉄欠乏に陥る。現時点でこれは修正すべきものと考えられるが、アプローチはまだ確立していない。乳児期にはヘプシジン系の制御が未熟なため、一律に鉄補充を行うと一部には過剰となり、逆に神経発達と腸内細菌叢に悪影響をもたらす。母乳栄養児には、補完食での積極的な鉄摂取を勧めた上で、鉄欠乏リスク (男児と体重増加率) に応じて鉄充足状態を評価するが、欠乏例に対する適切な鉄補充方法については今後の検討課題である。</p>

9月10日(日) 8:50～11:20 G301+G302 (3階)
委員会企画 5 授乳と補完食に関する検討会主催 Special Interest Group 「“一歩踏み込んだ” 授乳と補完食に関する情報」
司会：井上 佳也 (井上こどもクリニック)、谷村 聡 (たにむら小児科)
授乳と補完食に関する最近の動き～フォローアップミルクとベビーフードについて考える～ 瀬尾 智子 (緑の森こどもクリニック)
<p>日本では出生数の減少にもかかわらず、ベビーフードの売り上げが増加している。日本のベビーフードはエネルギー密度やタンパク質・鉄の含有量が少ないので、使用する場合は、栄養の内容や量、費用を考慮する必要がある。また、最近では乳児の鉄不足対策をうたったフォローアップミルクのマーケティングも盛んである。フォローアップミルク中の鉄は吸収が悪く、乳糖以外の糖が含まれ、母乳や乳児用調整乳よりもタンパク質が多い。鉄の補給を目的としてフォローアップミルクを使用すると、エネルギーやタンパク質が過剰になる可能性がある。フォローアップミルクを摂取することにより、他の必要な食品の摂取量が不十分になることも懸念される。鉄に関しては、ヘム鉄を含む動物性食品を食事から摂取することが望ましい。乳幼児の健康を守る専門家は、ベビーフードやフォローアップミルクについての正確な知識を得た上で、どのような支援ができるか考察する。</p>

9月9日(土) 9:10～11:40 G304 (3階)
ハンズオンセミナー 1 (A-H-01)
改めて、一般小児科外来での湿潤療法～初心者編～
<p>リーダー：八木 和郎 サブリーダー：岡田 清春、福田 弥一郎 ファシリテーター：禹 満、浅井 俊行、宮原 篤、柿澤 美保 (小児科八木医院、おかだ小児科医院、福田診療所、禹小児科クリニック、キッズクリニックアリス、かろがもクリニック、光ヶ丘スベルマン病院)</p>
<p>キズやヤケドの湿潤療法は、痛みがなく、早く治り、傷跡も残りにくいというメリットがあり、その治療効果、治療結果により湿潤療法を実践している病院や医院が増えてきています。しかし、経験が無いとなかなか手を出しにくいとか、どの被覆材をどのような症例に使えばいいのか、経過観察やうまくいかない場合はどうすればいいのかなど、よく分からないという意見も聞きます。そこで、今回、湿潤療法の経験があまりない方を対象とした湿潤療法の基本を学べるセミナーを企画しました。まず、登録商法として認められている「なついで式湿潤療法[®]」の原理と手技の実際を解説、その後、小グループに分かれて提示された症例をもとに、経験豊富なファシリテーターと共に用意された様々な被覆材を使って人形を用いたり参加者が互いに処置をしたりしてやり方を体験していただきます。最後に、小外傷の処置、経過観察のポイントと後療法、保険適応についてそれぞれ解説します。セミナーを経験すれば誰でも明日から湿潤療法を実践出来るような体験型セミナーです。</p>

9月9日(土) 13:40～15:40 G403 (4階)
ハンズオンセミナー 2 (B-H-01)
「抱っこ・おんぶの安全で快適な手技と抱っこ紐 (子守帯) の使い方」
<p>栗田 京子¹⁾、○園田 正世¹⁾、樋口 博之²⁾、深井 誠³⁾ 1) 抱っこひも安全協議会 2) ラッキー工業株式会社 3) ベビービョルン株式会社</p>
<p>児を抱くことは児の輸送以外にもあやしや寝かしつけなどでも行われ、子育ての基底行為になっている (西條, 2004)。一般的に、産院では褥婦に対して授乳の抱き姿勢については指導するが、それ以外の抱きについての指導は行わない。しかし家庭内での抱きは長時間にわたり (西條, 2004)、その身体的負担は、授乳と同程度のカロリーを消費する可能性があり (Wall-Scheffler, Geiger, & Steude-Numbers, 2007)、腱鞘炎や腰痛などの身体の不調を招くこともある。本セミナーでは、抱きやおんぶに関する先行研究を概説し、抱きの姿勢や接触が親子へどのようなメリット・デメリットをもたらしているかを整理する。また、日本小児整形外科学会が提唱する素手の「コアラ抱っこ」の実践や、市場に普及している抱っこひもなどを用いて安全に快適に装着するポイントをワークショップ形式で教示する。</p>

9月9日(土) 9:10～16:00 G316+G317(3階)
 ※14:30～16:00のグループワークはワークショップ(B-W-01)のため、定員制

小児 AMR 対策セミナー

第6回小児薬剤耐性 (AMR) 対策セミナー

明神 翔太^{1,2)}、大竹 正悟³⁾、○磯部 裕介⁴⁾、大野 茜子⁵⁾、大西 智子⁶⁾、越智 史博⁷⁾、浅野 裕一郎⁸⁾、○山田 健太⁹⁾、
 小泉 奈央¹⁰⁾、野村 さちい¹¹⁾、○松木 史¹²⁾、古野 憲司¹³⁾、岩元 典子¹⁴⁾、笠井 正志¹⁾

- 1) 兵庫県立こども病院 感染症内科 2) 国立成育医療研究センター 感染症科 3) 国立感染症研究所 実地疫学研究センター第一室
 4) 東京都立小児総合医療センター 感染症科 5) 国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンター 6) 奈良県立医科大学 小児科
 7) 愛媛県立新居浜病院 小児科 8) 福島県立医科大学付属病院 小児科 9) 福井大学医学部附属病院 小児科
 10) 神奈川県立こども医療センター 11) つながる ひろがる 子どもの救急 / 亀美ヶ丘小児科 12) 株式会社なの花西日本 なの花薬局ミュージズイースト店
 13) 福岡市立こども病院 総合診療科 14) 国立国際医療研究センター 国際感染症センター・総合感染症科

薬剤耐性 (Antimicrobial resistance; AMR) 菌の拡大は世界的な問題であり、AMR 対策は未来の子ども達に抗菌薬を残しておくことに繋がります。第6回となる今回は、小児診療に関わる全ての職種に加え、次世代の小児医療を担う医療系学生も対象とした講義・事例紹介と少人数でのグループワークを行います。特に今回は小児科以外の診療科の考えを知り、AMR 対策のためにいかに連携していくかを焦点としたテーマを扱います。

なお、本セミナーは第32回日本外来小児科学会年次集会、日本小児感染症学会 教育委員会、国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンターが共催で開催させていただきます。参加には年次集会への参加費のみが必要です。午後の部を事前申し込みが必要なワークショップとして開催します。



本企画の詳細はこちらから



9月10日(日) 13:10～15:40 G314+G315(3階)

こどもどこセミナー 医学生・若手医師支援委員会こどもどこセミナー

司会: 荒川 明里 (中川の郷療育センター)、米谷 僚子 (滋賀医科大学)

「未来を見た男の話」

講師: 植田 育也^{1,2)}

スタッフ: 清水 翔^{5,14)}、富樫 華子^{6,14)}、河野 裕佳^{7,14)}、白石 亘^{8,14)}、星野 絵里^{9,14)}、山中 由芽^{8,14)}、沖田 侑椰^{7,14)}、
 島田 翔^{10,13)}、張 慶哲^{11,13)}、岡本 茂^{12,13)}

- 1) 埼玉県立小児医療センター小児救命救急センター 2) 埼玉県立小児医療センター救急診療科 3) 中川の郷療育センター小児科 4) 滋賀医科大学医学部医学科
 5) 旭川医科大学医学部医学科 6) 群馬大学医学部医学科 7) 鹿児島大学医学部医学科 8) 島根大学医学部医学科 9) 弘前大学医学部医学科 10) 久留米大学病院小児科
 11) 沖縄南部医療センター・こども医療センター小児感染症内科 12) 洛和会音羽病院小児科 13) 日本外来小児科学会 医学生・若手医師支援委員会
 14) 日本外来小児科学会 医学生・研修医ネットワーク「こどもどこ」

<目的>日本の PICU のパイオニア、植田育也先生 (埼玉県立小児医療センター) を講師に迎え、植田先生のキャリアの道筋を辿りながら、先生が医師人生の岐路に立たれた際に直面されたキークエスチョンを提示する。参加者は「自分だったらどうするか…?」を考え、参加者同士でグループワークを行い意見交換する。植田先生のキャリアを時系列で仮想的に追体験する事で、参加者自身の今後のキャリア形成の参考にさせていただくことを目的とする。

<「こどもどこ」とは> 2005年に日本外来小児科学会年次集会で結成された、将来小児医療に携わりたい医学生を中心としたネットワークである。現在は教育検討会の医学生・若手医師支援委員会所属で活動し、小児科領域をテーマにしたセミナーを開催している。

<対象> 医学生・初期研修医・後期研修医 (30名) 予約制

<申込> <https://forms.gle/A1iJSSQPNUYao4KL9>

<締切> 8月26日(土)



本企画の詳細はこちらから



詳細ページ

参加申し込み

9月9日(土) 9:10 ~ 10:20 G403 (4階)	
スポンサードセミナー 1 共催: ホロジックジャパン株式会社	
司会: 宮田 章子 (さいわいこどもクリニック)	
ほんとうに重要な小児呼吸器感染症の診断とその意義	
笠井 正志 (兵庫県立こども病院)	
<p>小児プライマリケア疾患を分類するのに、小児科医は「3C」を用いる。すなわち Common (頻度が多い)、Critical (重症若しくは重症化する可能性が高い)、そして Curable (治療可能) である。そして今新たな C である新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が加わった。「3C + C」を小児呼吸器感染症の病原体に当てはめると、Common は感冒を引き起こすウイルスであり、Critical は RS ウイルス、Curable はインフルエンザウイルス、そして新型コロナウイルスとなる。小児呼吸器感染症における病原体診断は検査が全てではない。しかし定点報告など「届出」には検査が求められることが少なくない。また検査なく十把一からげに抗菌薬や抗ウイルス薬を処方することは、子どもに優しい診療ではない。ではほんとうに重要なことは何か。それは検査前確率と検査後のマネジメントである。事前に予測し、結果を正しく解釈し、最適なマネジメントをする臨床能力と、その検査結果を次の患者に生かす内省力である。</p>	

9月9日(土) 10:30 ~ 11:40 G301+G302 (3階)	
スポンサードセミナー 2 共催: サノフィ株式会社	
ライフステージ別に小児感染症を考える	
司会: 橋本 浩一 (福島県立医科大学)、中野 貴司 (川崎医科大学)	
乳幼児感染症の変遷と新たな展開	
橋本 浩一 (福島県立医科大学医学部小児科学講座)	
<p>2011年1月に日本小児科学会から「予防接種の同時接種に対する考え方」が示されました。その後、多くのワクチンが次々と定期接種へ導入され、ここ約10年で乳幼児期における感染症発症の状況が大きく変わりました。また COVID-19 パンデミックは小児のワクチン接種率、そして一般感染症の罹患状況に影響を与えました。さらに RS ウイルス感染症の予防は新たなステージを迎えようとしています。乳幼児期における一般小児における感染症の変遷、そして課題について一緒に考えたいと思います。</p>	

9月9日(土) 10:30 ~ 11:40 G301+G302 (3階)	
スポンサードセミナー 2 共催: サノフィ株式会社	
ライフステージ別に小児感染症を考える	
司会: 橋本 浩一 (福島県立医科大学)、中野 貴司 (川崎医科大学)	
小児期、就学期以降の小児感染症	
中野 貴司 (川崎医科大学 小児科)	
<p>COVID-19 の流行の影響もあり、国内での MR ワクチンの接種率が下がっており、海外からの渡航者数の回復に合わせて麻疹の流行が懸念されています。</p> <p>また近年、英・米国など先進国の大都市で環境水からポリオウイルスが検出されています。WHO はすべての国が VDPV または WPV1 のアウトブレイクに迅速に対応できるように、対応計画を策定することを推奨しました。国内においても持ち込みリスクに備えた対応が必要です。</p> <p>今後、日々の診療でどう対応していくべきか、皆さまと一緒に考えたいと思います。</p>	

9月10日(日) 8:50 ~ 10:00 G403 (4階)	
スポンサードセミナー 3 共催: 森下仁丹株式会社	
ビタミン D 最新の知見	
司会: 時田 章史 (クリニックばんびい)	
子どもの健康とビタミン D	
富本 和彦 (とみもと小児科クリニック)	
<p>母乳には栄養素と非栄養素 (ホルモンや免疫、腸内細菌叢の移行・醸成) の側面があり、栄養素だけの議論はしてはならない。しかし、母乳育児支援においては母乳の栄養学的弱点である鉄とビタミン D (VD) について熟知しておく必要がある。</p> <p>本邦妊婦の 60% は VD 欠乏にあり、母乳中 VD 濃度も低い。VD は日光によって生成されるため、母乳栄養児では日光照射が少なければ VD 不足に陥る。実際に北日本の母乳栄養児では 61.9% が欠乏状態にあり、東京、京都においても不足は著しい。</p> <p>VD はホルモンとして全身組織に作用するため、欠乏すれば骨外病変も来す。乳児期には VD 不足に対する PTH の反応が弱く、骨病変は「生理的 O 脚」など潜在的になることが多いが、骨外病変として感染症、自閉症スペクトラム、肥満、喘息との関わりが示唆されている。小児期には過度な日光防護を避け、新生児期から天然型 VD400 IU/日の補充投与を行うのが望ましい。</p>	

9月10日(日) 8:50 ~ 10:00 G403 (4階)	
スポンサードセミナー 3 共催: 森下仁丹株式会社	
ビタミン D 最新の知見	
司会: 時田 章史 (クリニックばんびい)	
女性の健康とビタミン D	
太田 邦明 (東京労災病院)	
<p>ビタミン D (VD) はおもに古典的機能として骨形成は知られているが、非古典的機能として細胞増殖・分化・アポトーシスの調節、免疫機能の強化など様々な作用が報告されている。最近、日本人女性は VD 摂取量が多いほど死亡リスクが低いという報告があった (Nanri A et al, Eur J Epidemiol. 2023)。また VD は日光を浴びることで生成されるため、特に女性は UV カット効果のあるファンデーションなどを使う機会が多く、VD 不足が国際的に深刻な問題となっている。それゆえに、VD 不足のために女性特有の疾病である月経異常、不妊症、産科合併症などの若年期生殖異常を、更年期障害や骨粗鬆症などの中高年代謝異常を引き起こす。さらに妊娠中の VD 不足が次世代の児の統合失調症の発症リスクを上げることが報告されている。つまり、女性のライフワークにおいて VD の役割は非常に重要であることが理解できる。本講演では、日本人女性の VD 不足の状況と健康との関連性を概説し、VD 摂取の重要性を討議・提案する予定である。</p>	

9月10日(日) 10:10～11:20 G404(4階)
スポンサードセミナー 4 共催：大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部
クリニックでできる乳幼児湿疹ケア 司会：川田 康介（かわだ小児科アレルギークリニック）
STOP！食物アレルギー ～小児科クリニックで始める乳児湿疹早期介入のコツ～ 西 凜（祐天寺ファミリークリニック）
乳児湿疹への早期介入が、アレルギーマーチ予防の上で重要と言われて久しい。特に地域のクリニックでは、生後2か月からのワクチン接種開始に始まり、毎月赤ちゃんに接していくなかで、湿疹への早期発見、早期介入という絶好の機会を与られている。今回は、当院で行っている日常診療時のポイントと、月1回行っている乳児アレルギー教室のご紹介をする。また、その結果、食物アレルギー発症がどの程度まで抑えられたかの院内データを併せてご紹介したい。

9月10日(日) 10:10～11:20 G404(4階)
スポンサードセミナー 4 共催：大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部
クリニックでできる乳幼児湿疹ケア 司会：川田 康介（かわだ小児科アレルギークリニック）
アレルギー発症予防を意識した乳幼児期のケア ～小児科クリニックだからこそ出来ること～ 世間瀬 基樹（東京シテイクリニック三田）
G. Lackの提唱した二重アレルギー曝露仮説に基づくと、乳児期早期から湿疹をきちんとケアすること、また離乳食は遅らせることなく様々なものを食べ進めていくことは、アレルギー予防・管理のうえで重要である。乳児期早期から継続的に関わる機会をもつ小児科クリニックの医師が「湿疹治療」と「離乳食の進め方」についてイニシアチブを取ることは有益である。当院では湿疹治療の重要性について早い時期から啓蒙し早期受診につなげ、湿疹で受診した際には、スキンケア指導や外用剤の塗り方指導をPAEと分担し行っている。また離乳食の進め方については、PETIT studyなどの臨床研究の結果を情報として伝え、遅らせることなく様々なものを食べ進めていけるよう啓蒙している。鶏卵については、不十分な加熱調理の卵で症状を起こすケースが多いため、加熱による抗原性の低下について具体例を示している。当院は開院後7年が経過し、乳児期早期から当院がかりつけであることも達の食物アレルギーの状況についても報告したい。

9月10日(日) 13:00～14:10 G303(3階)
スポンサードセミナー 5 共催：佐藤製薬株式会社
クリニックで始める子供の痛みケア～少しの意識改革がもたらす子どもの明るい未来～ 司会：真部 淳（北海道大学大学院医学研究室 小児科学教室）
－子どもの痛み体験はその時だけでは終わらない－ 加藤 実（春日部市立医療センター ペインクリニック内科）
注射の痛みは一瞬、弱い、仕方ないと医療者や保護者には認知されている。しかし注射を受ける子どもは強い不安や恐怖を抱いていることが報告されている。そもそも痛みは不快な感覚かつ情動体験と定義され、感覚成分、情動成分、認知成分から構成されている。その結果、痛み体験は、感覚系では中枢性感作が、認知では強い恐怖感体験の記憶を介して医療行為の回避に繋がることが指摘されてきた。カナダではワクチン接種時の痛みを減らす取り組みが行われ、エビデンスのある5P approach (procedural, physical, pharmacological, process, psychological) が日常診療に導入された。子どもの人権を守る観点から2015年WHOからもこれを基本としたワクチン接種時の痛みの軽減法が提唱された。本邦でもエビデンスに基づいた知識が広まり、日常診療での実践に繋げる必要がある。

9月10日(日) 13:00～14:10 G303(3階)
スポンサードセミナー 5 共催：佐藤製薬株式会社
クリニックで始める子供の痛みケア～少しの意識改革がもたらす子どもの明るい未来～ 司会：真部 淳（北海道大学大学院医学研究室 小児科学教室）
「子どもの“痛い!!”注射を減らすためにできることを考えよう」 福地 麻貴子（地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター）
痛みを伴う医療処置（採血や末梢静脈確保等）（以下、注射）の体験は、一時的なものではなく、子どもに苦痛や恐怖の記憶として残り、成長後にも影響を及ぼすといわれています。私たち医療者は、「“今”注射を受ける子どもへのケア」について、子どもにとって“今”だけでなく、“未来”にも繋がるケアであることを意識する必要があります。
ある子ども（幼児後期）の注射の体験を保護者にお聞きしました。「前の病院では、母親から引き離され、奥の部屋に連れていかれて。泣いて、暴れて、何度も刺されたみたいです。」
このような体験を持つお子さんへの支援として何ができるのでしょうか？
痛みそのものを和らげる薬物療法（外用局所麻酔剤エムラ [®] パッチ等）と、不安や恐怖を和らげる非薬物療法（プレバレーション）を併用し、少しでも子どもが感じる身体と心の痛みが緩和されるよう、日々努力をしています。
今回の講演では、注射を受ける子どもへの支援に関し、入院している病棟での支援と、退院後に外来で治療を継続する子どもの支援も含めてご紹介いたします。

9月9日(土) 12:00～13:00 G401+G402 (4階)	
ランチョンセミナー 1 (LS-1)	共催: MSD 株式会社 司会: 山本 淳 (星川小児クリニック)
HPV ワクチンの接種率向上に向けて私たちが取り組むべきこと	石和田 稔彦 (千葉大学真菌医学研究センター 感染症制御分野)
<p>2022年4月から、ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンの積極的接種勧奨が再開され、今年4月からは、9価 HPV ワクチンが定期接種およびキャッチアップ接種ワクチンとして活用できるようになりました。また、15歳未満に対しては、9価ワクチンの2回接種の用法が追加となりました。子宮頸がん等の積極的予防のためには、HPV ワクチン接種率の向上は喫緊の課題です。接種率向上のためには、メディカルスタッフを含む医療従事者が、HPV ワクチンに関する最新の情報を知り、ワクチン対象者や保護者の方に正確な情報提供を行っていく必要があります。本セミナーでは HPV ワクチンのこれまでとこれからについて、わかりやすく解説すると共に、これまで私たちが取り組んできた中学生・高校生に対するワクチンに対するリスク教育について、千葉県における HPV ワクチンの接種後発症者に係る地域の医療機関との連携についても触れたい。</p>	

9月9日(土) 12:00～13:00 G303 (3階)	
ランチョンセミナー 2 (LS-2)	共催: 武田薬品工業株式会社 司会: 菅谷 明則 (すがやこどもクリニック)
おたふくかぜワクチンはなぜ任意接種のままなのか? : コロナの経験から予防接種を考える	田中 敏博 (静岡厚生病院 小児科)
<p>“定期接種”には、接種されるワクチンの有効性と安全性が公に認められ、重要であるという印象も与える響きがあるのではなからうか。セットになる公的な費用助成は、接種への障壁をさらに低くする。こども達を VPD から守るために、任意接種のままで最後の課題となっているのがおたふくかぜワクチンである。健闘しているとは言え、任意である限りは接種率が上がり切らず、したがって先進諸国の中で唯一、いまだ流行が観察される。かつて、わが国でもおたふくかぜワクチンが“定期接種”だったことがある。新三種混合ワクチンとも言われた麻しん風しんおたふくかぜ混合ワクチン、通称 MMR ワクチンとして、1989年から1993年、足掛け5年の出来事である。おたふくかぜワクチンの定期接種はなぜ途絶え、30年間も任意接種のままなのか。新型コロナウイルスの上陸に震え上がってワクチンを渴望した経験を踏まえ、予防接種、そしておたふくかぜワクチンについて考えてみたい。</p>	

9月9日(土) 12:00～13:00 G301+G302 (3階)	
ランチョンセミナー 3 (LS-3)	共催: 田辺三菱製薬株式会社 司会: 佐藤 和人 (上大岡こどもクリニック)
予防接種の間違い防止のためにクリニックで出来ること	崎山 弘 (崎山小児科)
<p>予防接種は子どもの健康を守るための重要な医療行為ですが、一般的な保険診療の医療とは異なり基本的に健康な子どもたちが対象です。ワクチンを受けて不健康になることは好ましくありません。そのために、十分な効果を得ながら、ワクチンによる不都合をなるべく減らすために、治験の結果や過去の経験などに基づいて、予防接種には様々な規則が定められています。規則から外れた接種が必ずしも健康被害に至るわけではありませんが、規則違反、つまり予防接種の間違いを防ぐ努力は必要です。</p> <p>この講演では過去の国内の事例より、頻度の多い間違い、健康被害を招きやすい間違いについて再確認するとともに、接種数や職員の配置状況が異なるそれぞれの医療機関で、どのように考えれば、そして、どのような作業をすれば、予防接種の間違い防止につながるかをお話します。ただし、聞くだけでは間違いは減りません。今日から手順を変えることの大切さもお伝えします。</p>	

9月9日(土) 12:00～13:00 G304 (3階)	
ランチョンセミナー 4 (LS-4)	共催: デンカ株式会社 司会: 藤森 誠 (藤森小児科)
新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ	時田 章史 (クリニックほんびい)
<p>新型コロナウイルスが国内で2020年1月に初めて感染が確認されて以来、年に約3回の流行がおき、2023年6月末時点において第9波の流行が予想され、特にワクチン接種率が低迷している小児を中心とする流行になることが懸念されています。一方2019/20シーズンのインフルエンザによる累積の推計受診者数は約728.5万人でしたが、2020/21、2021/22シーズンは顕著に減少しました。2022/23シーズンは3年ぶりの大流行が予想されましたが、予想に反し中規模の流行となり、その後梅雨に入っても小流行が散発し、季節外れの学級閉鎖が全国で発生しています。この2つの感染症は、脳症・脳炎など小児にとって致命的な病態を引き起こすため、今後も引き続き注視すべき感染症です。本講演では、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの病態、検査・診断、治療および予防について自験例を紹介しながら解説したいと思います。</p>	

9月9日(土) 12:00～13:00 G403 (4階)	
ランチョンセミナー 5 (LS-5)	共催: 日本ビーシージー製造株式会社 司会: 横田 俊一郎 (横田小児科医院)
忘れていませんか? 結核のこと～日本の結核罹患状況から総合的に小児結核を考える～	徳永 修 (国立病院機構南都病棟 小児科)
<p>わが国の全年齢結核罹患率は2021年にやっと人口10万対10を下回り、「低まん延国」の仲間入りを果たすことができました。また、小児(0～14才)に限った罹患状況は「超低まん延」と評価できるレベルまで低下しており、世界で最も小児結核罹患率が低い国となっています(年間新登録小児結核患者数は近年30～50例程度、この年齢層に限った結核罹患率は人口10万対0.2～0.3程度で推移)。小児結核症例が順調に減少することは非常に喜ばしいことですが、診療機会の減少が小児結核に対する関心の低下、さらに診療レベルの低下へと結びつき、忘れたところに遭遇した小児結核症例に適切に対応することができず、診断、治療の遅れにつながる可能性も懸念されます。本セミナーではわが国の結核罹患状況を概観した上で、小児結核を「知る」ことの重要性を考えてみたいと思います。</p>	



9月9日(土) 12:00～13:00 メインホール G3+G4 (1階)	
ランチョンセミナー 6 (LS-6) 共催: ノーベルファーマ株式会社/株式会社メディバルホールディングス	
司会: 田中 秀朋 (あかちゃんとかどものクリニック)	
これからはじめる How to 発達診療 ～健診から外来まで～	
是松 聖悟 (埼玉医科大学総合医療センター 小児科)	
<p>こどもの情緒課題が着目されるようになってから久しいですが、神経発達症やその境界域にあるこどもへの支援は、依然として各地における大きな課題のままです。乳幼児健診での気付き、助言、医療機関につながった場合の支援、つながらない場合の支援は、多職種がチームとなって取り組む必要があります。演者の大分県での「おおいた地域医療支援システム構築事業」、「発達障がい児等心のネットワーク推進事業」における5歳児健診を中心とした活動、大分県中津市で学んだ子育て支援、埼玉県で立ち上げた「小江戸・こども支援推進協議会」での活動を介して、これから神経発達症支援をはじめようかと考えているビギナーの先生方へ、著者なりのコツをご提案できればうれしいです。</p>	
9月9日(土) 12:00～13:00 G404 (4階)	
ランチョンセミナー 7 (LS-7) 共催: モデルナ・ジャパン株式会社	
司会: 藤岡 雅司 (ふじおか小児科)	
『国内における vaccine hesitancy (忌避, 躊躇) の特徴』	
勝田 友博 (聖マリアンナ医科大学小児科学教室)	
<p>ワクチン忌避 (vaccine hesitancy) は、その程度に個人差はあるものの、あらゆる人に潜在している。かく言う私自身も毎年のインフルエンザウイルスワクチンや、既に6回接種済みとなったCOVID-19ワクチン接種の直前は、接種時やその後の痛みを想像し、少しだけ鬱々とした気分になる。このような感情も広義では vaccine hesitancy と言える。一方で、私自身は、それぞれのワクチンを接種することのメリットが、痛みというデメリットを大きく上回ると認識しているため、接種を中止しようと考えたことは一度もない。我が国は他国と比較し、元々ワクチンに対する有効性、重要性、安全性に対する信頼が低い国として知られており、vaccine hesitancy が発生しやすい国と言える。本セミナーにおいては、国内における vaccine hesitancy の特徴をご紹介させていただくとともに、ご参加のみなさんと今後の国内外来診療における vaccine hesitancy 対策に関してディスカッションさせていただきます。</p>	
9月10日(日) 11:40～12:40 G401+G402 (4階)	
ランチョンセミナー 8 (LS-8) 共催: MSD 株式会社	
司会: 藤岡 雅司 (ふじおか小児科)	
小児肺炎球菌感染症の課題 - これからのワクチンの役割	
黒木 春郎 (医療法人社団嗣業の会 こどもとおとなのクリニック パウルーム)	
<p>かつて、肺炎球菌感染症は、小児において主要な侵襲性感染症であった。小児科医にとって、これらを初診でいかに見逃さないか、また治療をどのように行うかが大きな課題であった。現在は、そのような患者を診る頻度は、極めて少なくなり、ある世代より若い世代の医師は、診療をされた経験がほとんどないのではないだろうか。</p> <p>一方、肺炎球菌はその血清疫学の変化、抗菌薬感受性の変遷などの課題は多い。また、非侵襲性として、局所粘膜への感染(中耳炎、気管支炎)の起炎菌としても主要なものである。肺炎球菌ワクチンの普及により、侵襲性肺炎球菌感染症はまれなものとなったが、非ワクチン株による感染については、ワクチン普及後の問題となっている。本講演では、侵襲性肺炎球菌感染症の実例を提示し、もはや経験することが少ない事例として、あらためて意識を喚起してみたい。</p> <p>また、ワクチン普及後の血清疫学の変化、抗菌薬感受性の変遷を踏まえて、今後の課題を提案する。</p>	
9月10日(日) 11:40～12:40 G303 (3階)	
ランチョンセミナー 9 (LS-9) 共催: 極東製薬工業株式会社	
司会: 吉原 重美 (獨協医科大学)	
『百日咳対策を考える』	
岡田 賢司 (福岡看護大学大学院/福岡歯科大学医科歯科総合病院予防接種センター)	
<p>本セミナーでは、(1)百日咳の疫学の変化(2)検査診断法(3)ワクチン対策を紹介いたします。</p> <p>まず百日咳の疫学の変化です。百日咳は、2018年から5類感染症全数把握疾患に改定され、診断した医師すべてに報告が求められています。2020年後半から、COVID-19の影響もあり報告数が激減していますが、百日咳含有ワクチン接種回数別の患者年齢が初めて明らかとなりました。</p> <p>百日咳の診断です。「鼻咽頭拭い液中の百日咳菌抗原の検出」を目的とした抗原定性検査キットは、多くの感染症で利用されているイムノクロマト法による抗原検出が2021年6月から利用できるようになっています。本キットによる早期の診断により、「重症化の予防」「抗菌薬の適正使用」「感染拡大の防止」が期待されます。</p> <p>最後に今後の百日咳含有ワクチンによる対策を考えます。2023年4月から、接種開始が生後2か月からとなりました。生後2か月からの接種の意義を皆様と考えたいと思っています。</p>	
9月10日(日) 11:40～12:40 G304 (3階)	
ランチョンセミナー10(LS-10) 共催: Meiji Seika ファルマ株式会社 / KM バイオロジクス株式会社	
司会: 田中 敏博 (静岡厚生病院)	
わが国の小児に対するワクチンの筋肉内注射	
中野 貴司 (川崎医科大学 小児科学)	
<p>わが国では、1970年代に小児の大腿への筋肉内注射(筋注)反復により大腿四頭筋拘縮症の患者多発があり、日本小児科学会は小児の筋注を極力避けるよう提言してきた。ただし、原因はワクチンでなく、注射量の多い抗菌薬や解熱薬と考えられている。このような歴史背景の中、わが国の小児用ワクチンで筋注製剤は少数である。一方海外では、生ワクチンは皮下注射(皮下注)、不活化ワクチンは筋注が標準的に推奨される接種経路とされている。アジュバント含有ワクチンの皮下注は局所反応が目立つことや、一部の不活化ワクチンは筋注の方が皮下注よりも免疫原性が良好という研究報告がある。筋注に伴う合併症は一般に稀だが、筋拘縮・神経損傷・血腫・細菌の二次感染などがある。ワクチン・ギャップが解消されつつある昨今、標準化に向けた流れの中で必要となる知識や技術に関する啓発、医療者や保護者の受容に向けた課題と展望について考察する。</p>	

9月10日(日) 11:40～12:40 メインホール G3 + G4 (1階)	
ランチョンセミナー11(LS-11) 共催:株式会社ジャパン・メディカル・カンパニー 司会:西巻 滋 (0歳からの頭のかたちクリニック/横浜市立大学)	
向き癖から位置的頭蓋変形症へ	草川 功 (0歳からの頭のかたちクリニック/聖路加国際病院小児科)
<p>日本の小児科学の教科書の中には、新生児・小児科領域の頭蓋変形に関しては、頭蓋骨早期癒合症や頭蓋顔面奇形の記述はあるものの、位置性頭蓋変形症についての記述はない。一方、小児科医の世界的 gold standard である Nelson textbook of Pediatrics には、この位置性頭蓋変形症に関して明確に疾患として記載されている。そして、数多くの論文も公開されているが、残念ながら、我が国の小児科領域では、単なる向き癖としての概念から抜けだせず、論文発表はおろか、学会発表もほとんどない。しかし、近年、位置性頭蓋変形症に対する認識は、大きく変わってきている。今回は、位置性頭蓋変形症の解説に加え、医療関係者のみならず、患者ご家族の頭蓋変形に対する認識の変化について、そして、その対応の変化について述べる。</p>	

9月10日(日) 11:40～12:40 G403 (4階)	
ランチョンセミナー12(LS-12) 共催:ビオメリュー・ジャパン株式会社 司会:牟田 広美 (いづかこども診療所)	
多項目遺伝子検査が教えてくれた with コロナの時代のライノウイルスの重要性	成相 昭吉 (松江赤十字病院 感染症科)
<p>COVID-19 新興後の 20 年 10 月に、18 の呼吸器ウイルスと百日咳を含む 4 つの非定型細菌を一度に PCR で検出する FilmArray 呼吸器パネル 2.1 を導入、5 類移行直前までの 31 か月間、SARS-CoV-2 以外の気道感染症小児入院の鼻咽腔ぬぐい液から検出される呼吸器ウイルスを調べた。百日咳が重症化する 4 混 2 回未接種の 4 か月齢までの咳嗽を認めた乳児を 1 群、5 か月齢以上の下気道炎症例を 2 群とした。1 群 47 例、2 群 97 例のそれぞれ 43 例 (91%)、88 (91%) から検出、単独検出は 1 群が 37 例 (86%) で最多は RS ウイルス、診断は細気管支炎であったが、2 群 66 例 (75%) ではライノウイルス (RV) が最多、診断は気管支炎、肺炎、喘息急性増悪と多様であった。オミクロン株 SARS-CoV-2 と RV の同時検出乳幼児例は気道症状が重症化すると報告された。ABC3 種がある RV には抗原定性検査はなく、高病原性の C 種はウイルス分離もできない。with コロナの時代に重要性を増す RV の検出は、臨床に役立つものと期待される。</p>	

9月10日(日) 11:40～12:40 G301+G302 (3階)	
ランチョンセミナー13(LS-13) 共催:ファイザー株式会社 司会:田中 秀朋 (あかちゃんとこどものクリニック)	
『コ・メディカルに知ってもらいたいワクチンのはなし』 -医学・統計学を超えて-	笠井 正志 (兵庫県立こども病院 感染症内科)
<p>「ワクチンはなぜ好かれないのか?」、演者が長らくワクチン接種、相談、教育に関わってきた疑問です。ワクチンを打たれる立場と打つ立場の両方から考察しましょう。</p> <p>ワクチンを打たれる立場として。ワクチンが好きでたまらないという方に出会ったことありますでしょうか。私は医療スタッフ含めて一人も出会ったことないです。みんな嫌な顔をします。演者も翌日に新型コロナワクチンやインフルエンザワクチン接種を控えている時は、なんとなく気が重く、当事者としてどうしても好きになれません。ワクチンを打つ立場として。誤接種したらどうしよう、当日キャンセル出たらどうしよう、停電になったらどうしよう、とんでもなく泣かれたらどうしよう、副反応出て、クレーム来たらどうしよう。これまたワクチン外来前日にはなんとなく気が重いものです。</p> <p>いずれも気分の問題ですが、医学、統計学が最も苦手とするのが、この気分問題です。本ランチョンセミナーでは医学・統計学以外のお話をします。</p>	

9月10日(日) 11:40～12:40 G404 (4階)	
ランチョンセミナー14(LS-14) 共催:富士フィルムメディカル株式会社 司会:横田 俊一郎 (横田小児科医院)	
クリニックや地域からみたインフルエンザ (迅速抗原検査の性能、薬剤耐性、流行状況等の検討)	市川 正孝 (市川こどもクリニック)
<p>演者は約 20 年前前から迅速抗原検査の性能評価を行っており、それに付随して得られたデータなどを利用してインフルエンザ等の臨床研究を行っている。また所属する秦野伊勢原医師会では 2009 年の新型インフルエンザの時より有志によるインフルエンザの発生登録を行っており、クリニックがある伊勢原市では学校感染症発生状況報告が行われている。今回はこれらのクリニックや地域より得られたデータから以下の 4 点についてお話をしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 迅速抗原検査の性能などや、この検討に付随して得られた知見。またインフルエンザ迅速キットの適正な使用時期についての検討。 2, 2018～19 シーズンにおけるインフルエンザのパロキサビル薬剤耐性についての検討。 3, 医師会での集計から、インフルエンザの年齢別の発生動向や年末年始の動向などについて。 4, 学校感染症発生状況報告から、新型インフルエンザや今回の新型コロナ感染症の罹患状況。 	

ワークショップ (WS) 一覧

9日 (土) 9:10-11:40

WS 番号	テーマ	会場	リーダー	定員	一施設からの参加人数制限	当日参加※1	参加費	対象
A-W-01	診療や健診で役立つ「子どもの「あし」と「くつ」の基本知識と活用法」	G312+G313 (3階)	吉村 真由美	40名	2名	—	—	—
A-W-02	親と子への服薬支援 その7 慢性便秘治療薬マクロゴール配合製剤の服薬支援を考える	G412+G413 (4階)	上荷 裕広	40名	1名	△	—	—
A-W-03	子どもたちをタバコの害から守るために	G414+G415 (4階)	牟田 広実	30名	—	△	—	—
A-W-04	小児科外来でのきょうだい関係における諸問題への対応	G311 (3階)	荒川 明里	30名	—	△	—	—
A-W-05	保護者支援のための電話相談を考える	G411 (4階)	福井 聖子	20名	2名	△	1,500円	—
A-W-06	タイムカードから勤怠管理ソフトへ	G320 (3階)	矢嶋 茂裕	20名	1名	—	1,000円	院長・事務長・勤務管理担当者
A-W-07	笑顔の一日に！朝礼終礼から学ぶ明るくポジティブな職場、チームづくり	G420 (4階)	矢野 耕治	30名	1名	△	—	—
A-W-51	拡大ワークショップ Baby-Led Weaning (赤ちゃん主導の離乳) を学ぶ	G314 + G315 (3階)	尾形 夏実	50名	2名	△	—	—

9日 (土) 14:30-17:00

WS 番号	テーマ	会場	リーダー	定員	一施設からの参加人数制限	当日参加※1	参加費	対象
B-W-01	第6回小児 AMR 対策セミナー ※2	G316 + G317 (3階)	明神 翔太	40名	—	○	—	—
B-W-02	コロナパンデミックを契機とした一般外来における感染症対策を考える	G312+G313 (3階)	松浦 伸郎	30名	2名	△	—	医師 10名 事務職 10名 看護師 10名
B-W-03	業務の棚卸しを一緒にしてみませんか	G412+G413 (4階)	田中 寿美子	30名	2名	—	500円	事務
B-W-04	乳幼児の姿勢運動発達の重要性を学ぶ	G414+G415 (4階)	山田 紳一智	30名	2名	△	—	医師
B-W-05	保育士さんあつまれ！～外来にとどまらずもっと地域とつながろう～	G311 (3階)	上田 達哉	30名	—	—	500円	保育士・医師
B-W-06	日本にも社会小児科学を根付かせよう	G411 (4階)	武内 一	20名	—	△	—	—
B-W-07	小児科外来における心理職の活用と発展	G320 (3階)	芦谷 将徳	30名	—	△	—	—
B-W-08	「他所はどうしてる？」うちではこのように予防接種をしています。	G420 (4階)	中村 豊	10名	2名	—	—	※3

10日 (日) 8:50-11:20

WS 番号	テーマ	会場	リーダー	定員	一施設からの参加人数制限	当日参加※1	参加費	対象
C-W-01	新しい開業小児科診療のイメージを語ろう：コロナ禍の先にある地域小児科学・外来小児科学の実践を目指して	G318 + G319 (3階)	井上 登生	50名	2名	△	500円	※4
C-W-02	盛り上げよう！かかりつけ医による「子ども・子育て支援」	G312+G313 (3階)	三平 元	50名	—	○	—	—
C-W-03	その日本語わかりませんか？！～なかなか手強いぞ 医療×「やさしい日本語」～	G412+G413 (4階)	斧田 順子	30名	2名	△	500円	看護師・薬剤師・事務
C-W-04	子どもの風邪診療について話し合おう	G414+G415 (4階)	井上 徳浩	24名	1名	△	—	医師



C-W-05	小児診療初期対応 (JPLS) コースを学んで活用して日々の診療をパワーアップ!	G311 (3階)	鈴木 研史	20名	2名	△	—	医師
C-W-06	外来看護のなかの「気になる場面」や「もやもやしていること」をみんなで話してみませんか?	G411 (4階)	古屋 千晶	20名	1名	△	—	看護師
C-W-07	感染症の迅速検査について考える	G320 (3階)	牟田 広美	20名	—	△	—	—
C-W-08	子どもの貧困に気づき支援するために part7	G420 (4階)	和田 浩	30名	—	△	—	—
C-W-51	拡大ワークショップ 発達応援実践企画「笑顔引き出す診察室へようこそ!」 ～コツを使ってほめ上手になろう～	G304 (3階)	赤平 幸子	60名	2名	—	—	診察に関わる 医師・看護師・ 保育士

※ 1…「○」参加可、「△」空きがあれば参加可、「—」参加不可

※ 2…第6回小児 AMR 対策セミナーの開催は 9:00～16:00 になります。そのうち 14:30～16:00 はワークショップのため事前登録が必要です。

※ 3…1施設から複数人の参加の場合必ず1名は医師であること。

※ 4…医師・看護師を主としますが、WSの趣旨・目的に関し興味や意見がある方は、職種は問いません。

ショートミーティング (SM) 一覧

9日 (土) 9:10- 10:20

WS 番号	テーマ	会場	リーダー	定員	一施設からの参加人数制限	当日参加 ※1	参加費	対象
A-S-01	美味しい食物アレルギーの予防ワクチンの活用方法について	G221 (2階)	石井 真理子	20名	—	△	—	—
A-S-02	育児支援していますか	G416 (4階)	吉本 舞	20名	—	△	—	医師以外
A-S-03	(五十嵐先生好き集まれ) 今こそ、五十嵐正紘先生を語りたい	G417 (4階)	岡本 茂	20名	—	○	—	—
A-S-04	ネットを利用した臨床的広域サーベイランスのお誘い (influenza,hMPV, RSV,etc)	G418 (4階)	西藤 成雄	20名	—	△	—	—

10日 (日) 14:30-15:40

WS 番号	テーマ	会場	リーダー	定員	一施設からの参加人数制限	当日参加 ※1	参加費	対象
B-S-01	「楽しくガッチリ!まねしてガッチリ!」お話しましょ～レセプト点検	G416 (4階)	平嶋 淳子	20名	2名	△	—	医師・ 医療事務
B-S-02	Z世代のトリセツ? (コミュニケーション) どうしていますか?	G417 (4階)	原 里美	20名	2名	—	—	—
B-S-03	「予約システム」活用のコツ	G418 (4階)	吉村 由理	30名	2名	—	—	※1
B-S-51	拡大ショートミーティング 電話トリアージ どうやっていますか?	G211 (2階)	太田 まり子	50名	3名	△	—	—

10日 (日) 8:50-10:00

WS 番号	テーマ	会場	リーダー	定員	一施設からの参加人数制限	当日参加 ※1	参加費	対象
C-S-01	小児科の窓から母子を支援する一助産師だからできること～	G221 (2階)	在本 祐子	15名	—	○	—	助産師
C-S-02	「私たちは、まだまだ上手になれる!」～処置のコツ!～	G416 (4階)	関 利恵	20名	2名	△	—	—
C-S-03	クレームからのファン作り～大事な事はクレームが教えてくれる～	G417 (4階)	黒木 良子	30名	2名	—	—	—
C-S-04	小児科志望の医師は初期研修医時代に何をすべきか	G418 (4階)	上垣 怜央	30名	—	○	—	—

※ 1…医師を除く普段予約システムを操作している職種の方 (事務、看護師、保育士など)

スポンサーセミナー 一覧

セミナー名	開催日時	会場	共催	司会	テーマ・演題	演者	抄録掲載ページ
スポンサーセミナー 1	9日(土) 9:10~10:20	G403 (4階)	ホロジックジャパン株式会社	宮田 章子	「ほんとうに重要な小児呼吸器感染症の診断とその意義」	笠井 正志	P.31
スポンサーセミナー 2	9日(土) 10:30~11:40	G301+G302 (3階)	サノフィ株式会社	橋本 浩一	ライフステージ別に小児感染症を考える 「乳幼児感染症の変遷と新たな展開」	橋本 浩一	P.31
				中野 貴司	ライフステージ別に小児感染症を考える 「小児期、就学時期以降の小児感染症」	中野 貴司	P.31
スポンサーセミナー 3	10日(日) 8:50~10:00	G403 (4階)	森下仁丹株式会社	時田 章史	ビタミンD 最新の知見 「こどもの健康とビタミンD」	富本 和彦	P.31
					ビタミンD 最新の知見 「女性の健康とビタミンD」	太田 邦明	P.31
スポンサーセミナー 4	10日(日) 10:10~11:20	G404 (4階)	大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部	川田 康介	クリニックでできる乳幼児湿疹ケア 「STOP!食物アレルギー ~小児科クリニックで始める乳児湿疹早期介入のコツ」	西 凜	P.32
					クリニックでできる乳幼児湿疹ケア 「アレルギー発症予防を意識した乳幼児期のケア ~小児科クリニックだからこそ出来ること~」	世間瀬 基樹	P.32
スポンサーセミナー 5	10日(日) 13:00~14:10	G303 (3階)	佐藤製薬株式会社	真部 淳	クリニックで始める子供の痛みケア ~少しの意識改革がもたらす子どもの明るい未来~ 「子どもの痛み経験はその時だけでは終わらない」	加藤 実	P.32
					クリニックで始める子供の痛みケア ~少しの意識改革がもたらす子どもの明るい未来~ 「子どもの“痛い!!”注射を減らすためにできることを考えよう」	福地 麻貴子	P.32

ランチョンセミナー 一覧

9月9日(土) 12:00 ~ 13:00

LS番号	会場	共催	司会	演題	演者	抄録掲載ページ
LS-1	G401 + G402 (4階)	MSD 株式会社	山本 淳	HPV ワクチンの接種向上に向けて私たちが取り組むべきこと	石和田 稔彦	P.33
LS-2	G303 (3階)	武田薬品工業株式会社	菅谷 明則	おたふくかぜワクチンはなぜ任意接種のままなのか? : コロナの経験から予防接種を考える	田中 敏博	P.33
LS-3	G301 + G302 (3階)	田辺三菱製薬株式会社	佐藤 和人	予防接種の間違い防止のためにクリニックで出来ること	崎山 弘	P.33
LS-4	G304 (3階)	デンカ株式会社	藤森 誠	新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ	時田 章史	P.33
LS-5	G403 (4階)	日本ビーシージー製造株式会社	横田 俊一郎	忘れていませんか? 結核のこと~日本の結核罹患状況から総合的に小児結核を考える~	徳永 修	P.33
LS-6	メインホール G3 + G4 (1階)	ノーベルファーマ株式会社 / 株式会社メディカルホールディングス	田中 秀朋	これからはじめる How to 発達診療 ~健診から外来まで~	是松 聖悟	P.34
LS-7	G404 (4階)	モデルナ・ジャパン株式会社	藤岡 雅司	『国内における vaccine hesitancy (忌避, 躊躇) の特徴』	勝田 友博	P.34

9月10日(日) 11:40 ~ 12:40

LS番号	会場	共催	司会	演題	演者	抄録掲載ページ
LS-8	G401 + G402 (4階)	MSD 株式会社	藤岡 雅司	小児肺炎球菌感染症の課題 - これからのワクチンの役割	黒木 春郎	P.34
LS-9	G303 (3階)	極東製薬工業株式会社	吉原 重美	「百日咳対策を考える」	岡田 賢司	P.34
LS-10	G304 (3階)	Meiji Seika ファルマ株式会社 / KM バイオロジクス株式会社	田中 敏博	わが国の小児に対するワクチンの筋肉内注射	中野 貴司	P.34
LS-11	メインホール G3 + G4 (1階)	株式会社ジャパン・メディカル・カンパニー	西巻 滋	向き癖から位置的頭蓋変形症へ	草川 功	P.35
LS-12	G403 (4階)	バイオメリュー・ジャパン株式会社	牟田 広美	多項目遺伝子検査が教えてくれた with コロナ時代のライノウイルスの重要性	成相 昭吉	P.35
LS-13	G301 + G302 (3階)	ファイザー株式会社	田中 秀朋	『コ・メディカルに知ってもらいたいワクチンのはなし』 - 医学・統計学を超えて -	笠井 正志	P.35
LS-14	G404 (4階)	富士フィルムメディカル株式会社	横田 俊一郎	クリニックや地域からみたインフルエンザ (迅速抗原検査の性能、薬剤耐性、流行状況等の検討)	市川 正孝	P.35

企業展示、書籍

9月9日(土) 9:00 ~ 17:00 / 9月10日(日) 9:00 ~ 14:00

G1 + G2 (1階)

企業展示

ブース番号	企業名
1	アボット ダイアグノスティクス メディカル株式会社
2	富士レビオ株式会社
3	高田製薬株式会社
4	KAZEN WLD 株式会社
5	株式会社レイヤード
6	エムスリーソリューションズ株式会社
7	大塚製薬株式会社
8	デンカ株式会社
9	有限会社 アイ・ピー・エス
10	アークレイマーケティング株式会社
11	株式会社ポットロジー
12	オーソ・クリニカル・ダイアグノスティック クス株式会社
13	株式会社グッドバトン
14	株式会社ダイナミクス
15	合同会社 3Aims
16	アサヒグループ食品株式会社
17	株式会社ジャパン・メディカル・カンパニー
18	極東製薬工業株式会社
19	東洋紡株式会社
20	株式会社フォーメド
21	株式会社 GENOVA
22	株式会社タウンズ
23	株式会社エムアイユー
24	一般社団法人 日本ワクチン産業協会
25	株式会社堀場製作所 / フクダ電子株式会社
26	富士フィルムメディカル株式会社
27	バイオメリュー・ジャパン株式会社
28	ケンツメディコ株式会社

29	シースター株式会社
30	東邦薬品株式会社
31	株式会社東京エム・アイ商会
32	日本メディカルシステム株式会社
33	株式会社ニチレイバイオサイエンス
34	株式会社クランバース
35	森下仁丹株式会社
36	シスメックス TMC 株式会社
37	アドバンス・ウイング株式会社
38	株式会社瑞光メディカル
39	コニカミノルタ株式会社
40	チェスト株式会社
41	株式会社オムニバス・エンターテイメント
42	ジークス株式会社
43	株式会社オグラ
44	株式会社 Berry
45	ドクターキューブ株式会社
①	グラクソ・スミスクライン株式会社
②	アイリス株式会社
③	ウェルチ・アレン・ジャパン株式会社
④	ホロジックジャパン株式会社

書籍

ブース番号	企業名
①	株式会社童話館
②	株式会社ガリバー

患者家族の会・支援者の会

9月9日(土)9:00~17:00/9月10日(日)9:00~14:00

G1 + G2 (1階)

	団体名	代表者	団体 HP
1	NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会	菅谷 明則	https://www.know-vpd.jp/
2	風疹をなくそうの会『hand in hand』	可児 佳代	https://stopfuushin.jimdofree.com/
3	先天性トキソプラズマ&サイトメガロウイルス感染症患者会トーチの会	麻生 彩友美	https://toxocmv.org
4	ポリオの会	小山 万里子	http://www5b.biglobe.ne.jp/polio/
5	BWS 親の会	山口 素直	https://bws-oyanokai.moo.jp/bwsoyanokai/
6	細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会	田中 美紀	https://www.zuimakuen.net/
7	一般社団法人日本ペリネイタル・ロスサポート協会	押尾 亜哉	https://perinatalloss-support.com/
8	SSPE 青空の会(亜急性硬化性全脳炎・家族の会)	辻 治仁	http://sspe.main.jp/
9	公益財団法人日本ダウン症協会	玉井 浩	https://www.jdss.or.jp/
10	全国色素性乾皮症(XP)連絡会	長谷川 雅子	https://www.xp-japan.net/
11	認定 NPO 法人 ALD の未来を考える会	本間 利江	http://ald-family.com/
12	かながわりトルベビーサークル pena	坂上 彩	https://pena.kanagawa.jp/
13	摂食・嚥下障害児親の会 つばめの会	藤田 けい子	https://tsubamenokai.org/
14	HAE 患者会くみーむ	伊藤 さち子	http://www.create2011.jp/kumimu/
15	日本アラジール症候群の会	吉田 麻里	http://alagille.jp/
16	マルファンネットワークジャパン	太田 誠	https://www.marfan.gr.jp/
17	一般社団法人スベサポ	鈴木 啓吾	https://www.spesapo.or.jp/
18	腎性尿崩症友の会	神野 啓子	https://www.facebook.com/jinseinyouho
19	一般社団法人全国ファブリー病患者と家族の会	原田 久生	http://www.fabrynet.jp
20	NPO 法人全国ポンペ病患者と家族の会	岡崎 俊文	http://www.pompe-family.com
21	2型コラーゲン異常症患者・家族の会	毛利 環	https://2typec.org/
22	日本二分脊椎症協会	宇佐美 珠江	https://sba.jpn.com/
23	NPO アレルギー児を支える全国ネット「アラジーポット」	栗山 真理子	http://www.allergypot.net
24	一般社団法人 全国病児保育協議会	藤本 保	https://byoujihoiku.net
25	NPO 法人しぶたね	清田 悠代	https://sibtane.com/
26	一般社団法人 日本きょうだい福祉協会	有馬 靖子	https://siblingjapan.com/
27	一般社団法人チャームングケア	石嶋 瑞穂	https://charmingcare.jp/
28	NPO 法人 障害者の就労を支援する会	田中 敏明	http://aka.gmob.jp/cafe-harmony/

パネル展示

9月9日(土)9:00~17:00/9月10日(日)9:00~14:00

G1 + G2 (1階)

	タイトル	所属	代表者
A	院内報ネットワーク	ぽよぽよクリニック	田草 雄一
B	彩の国予防接種推進協議会のコロナ禍での活動	あかちゃんとかどものクリニック	田中 秀朋
C	ネットを利用した臨床的広域サーベイランスのお誘い	西藤小児科こどもの呼吸器・アレルギークリニック	西藤 成雄
D	AMR 対策資材~小児 AMR 対策セミナーより~	国立国際医療研究センター病院 AMR 臨床リファレンスセンター	大野 茜子
E	クリニックインスタ紹介	いげざわこどもクリニック	池澤 滋
F	一般社団法人日本保育保健協議会	一般社団法人日本保育保健協議会	伊藤 雄康
G	赤ちゃんとお遊ぼう	かるがも藤沢クリニック	川久保 博子
H	今年も面白いこと、やっています	医療法人くれよん うえだこどもクリニック	上田 達哉
I	イベントで待ち時間を楽しく!! ~診察室へ入る不安の軽減と小児科クリニックにおける保育士の役割~	医療法人みらいのたからもの つくばキッズクリニック	石塚 梓
J	30周年記念写真展	洛和会音羽病院	島田 康



特別セッション

「災害と 小児医療と 私たち」

9月10日(日) 13:50～16:10
メインホール G3 + G4 (1階)

日常の外来小児科診療をしていると、自分たちはあまりに小さな存在で、災害のときに私たちは何ができるのかとってしまうことがあります。今回は実際の小児科医師の経験談や、災害時に備えた小児医療と行政などとの連携の準備などについても語っていただきます。

また、ゲストにシンガーソングライターで小説家のさだまさしさんをお迎えします。

さだまさしさんはコンサート活動だけでなく、風に立つライオン基金を設立し、災害で苦しむ人を支援する活動にも力を注いでいます。年次集会の最後を飾る、皆さまの思い出に残る企画にしたいと思いますので、ぜひご来場ください。

講演 1

開業医の災害ボランティアについて

松田 幸久 (まつだこどもクリニック)

私の被災地へのボランティアは、私の郷里の島原が普賢岳災害で被害を受けた時、全国の人たちからたくさんの支援をしてもらったことがきっかけだった。阪神大震災の時は、神戸の診療所に参加した。新潟の中越地震の時は必要な物品を聞いて送った。その後、東北大震災の時は、小児科医の仲間と岩手の大船渡、宮古市、陸前高田市を回った。子どもたちは、避難所の中でおとなしくしていたが、我々大人たちがシャボン玉、折り紙、風船などを持っていくと、顔が綻んできた。子どもたちの心のサポートや、保護者の悩みなどに答える形で活動した。音楽や、絵本の読み聞かせや、相談時間を設けて、母親の不安な気持ちによりそう活動をした。開業医が被災した現地に行って活動には、時間的に厳しいが、被災地に行かなくてもできることがある。被災地の人と連絡を取り、子どもたちに必要なもの、不足しているものを集めて送ることである。また、私の地元では、台風、土砂崩れ、大雨による河の氾濫などの危険性がつきまとう。みんなが災害に巻き込まれないためにも、日頃からの備えと、地域の人たちとの日頃からの付き合いや、行政との関わりも重要だと思う。また、地域の高校生ボランティア団体などの若い力を取り込んでいくのも、今後の災害支援の一つに考えたい。

講演 2

災害と小児科医～どんな時でも 私たちは 弱い人を守る～

寺澤 大祐 (岐阜県総合医療センター 新生児内科/公益財団法人 風に立つライオン基金 風の団 専門団/災害時小児周産期リエゾン)

日本の災害医療における支援体制は、阪神大震災を契機に大きく進んだ。阪神大震災の教訓をもとに作られた全国組織が DMAT だ。

その後も台風、酷暑、豪雪など多くの災害を乗り越えながら被災者を守るための取り組みが進められてきた。

東日本大震災の後に大きく進んだものが、災害弱者である子供、障害児者、妊産婦への支援をするための専門組織「災害時小児周産期リエゾン」である。これは災害時に被災地の災害医療対策本部にリエゾンの資格を有する小児科医らが常駐し、医療機関支援、患者受け入れ・移送支援、保健支援など子供の総合医の視点から、DMAT や災害医療コーディネーターと協力して調整業務を行うものである。

いつの時代も子供は弱い存在である。

災害ではその弱い存在がさらに浮き彫りになる。そんな時こそ私たち小児科医は、その専門領域の如何に問わず、子供の代弁者でありたいと思う。

今回の講演ではリエゾンの歴史と役割を概説しつつ、自らも被災者となったときの小児科医としての役割について、会場の先生方と共に考えたい。

ゲスト



さだまさしさん

プロフィール

長崎市出身。シンガー・ソングライター、小説家。

73年フォークデュオ・グレープとしてデビュー。

76年ソロ・シンガーとして活動を開始。

「関白宣言」「北の国から」など数々のヒット曲を生み出す。

ソロデビュー以来、通算4,500回を超えるコンサートのかたわら、小説家としても「解夏」「眉山」「風に立つライオン」などを発表。多くの作品が映画化、テレビドラマ化されている。

またNHK「今夜も生でさだまさし」のパーソナリティを10年以上継続、NHK連続テレビ小説「舞いあがれ！」の語りなどでも活躍。

2015年「公益財団法人 風に立つライオン基金」設立以来、さまざまな助成事業や被災地支援事業などにも尽力。

今年50周年を迎え、6月より50th Anniversary 全国コンサートツアーを開催中。

予約制

前夜祭・ウェルカムパーティー

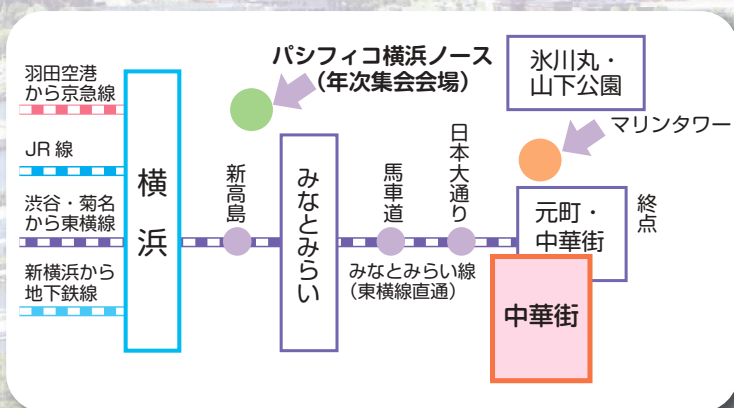
9月8日(金) 19:00～(受付開始 18:45～)

横浜マリントワー3F

ザ・ハウス横浜マリントワーウエディング内 Banquet Room

マリimba演奏を聴きながら、ディナービュッフェ

マリimba奏者、大森たつしさん、神原瑤子さんを迎えて、楽しいトークと軽快な演奏を聴きながらディナービュッフェも楽しめます。会場は横浜の歴史的なランドマークであるマリントワーホール。港の夜景を楽しみながら、魅惑のひとときを過ごしましょう。



茶話会

予約不要

9月9日(土) 17:10～17:50

パシフィコ横浜ノース G5 (1階)

みんなで会いましょう茶話会

横浜の年次集会の夜の懇親会は中華街でゆっくり会食。

その前にみんなが会える時間を作りました。お菓子とお茶の時間ですが、皆さんどうぞお気軽にご来場ください。

予約制

懇親会

9月9日(土) 19:00 ~
(受付開始 18:45 ~)

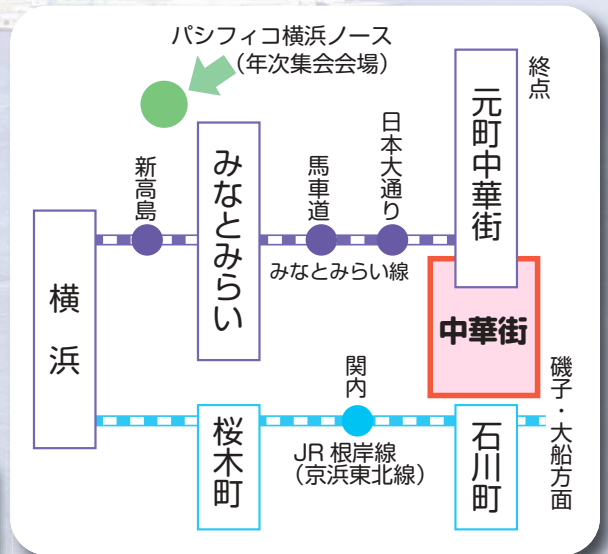
下記各店舗にて

中華街懇親会

横浜の年次集会といえば16回、22回も中華街での懇親会でした。今回ももちろん中華街にお席をご用意しました。



番号	店舗	定員
K-1	廣翔記 新館 (フカヒレ専門店)	120名
K-2	菜香新館 (広東料理)	80名
K-3	四五六菜館別館 (上海料理)	100名
K-4	大珍楼 本店 (広東料理)	130名
K-5	福臨閣 (広東料理)	150名
K-6	揚州飯店 本店 (上海料理)	120名



早朝ジョグ&ウォーク 予約不要

9月10日(日) 6:30 ~ 7:30

日曜日の朝、海辺を一緒に走ったり歩いたりしませんか？

パシフィコ横浜の敷地内にある「ぶかり棧橋」からスタート。海辺の散歩道を「ジョギング」または「ウォーキング」の2チームに分かれて赤れんが倉庫、象の鼻パーク、山下公園のほうに向かう予定です。「のんびり楽しく」ですので、お気軽にご参加ください。



▲ぶかり棧橋 (ここに6:30に集まってください)

謝 辞

本年次集会の開催にあたり、多くの企業・団体からご支援をいただきました。
ここに深甚たる感謝の意を表します。

第 32 回日本外来小児科学会年次集会
会頭 山本 淳
事務局 田中 秀朋
実行委員長 佐藤 和人

協賛一覧

共催企業

MSD 株式会社
大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部
極東製薬工業株式会社
佐藤製薬株式会社
サノフィ株式会社
株式会社ジャパン・メディカル・カンパニー
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
デンカ株式会社
日本ビーシージー製造株式会社
ノーベルファーマ株式会社/株式会社メディバルホールディングス
ビオメリュー・ジャパン株式会社
ファイザー株式会社
富士フィルムメディカル株式会社
ホロジックジャパン株式会社
Meiji Seika ファルマ株式会社/KM バイオリジクス株式会社
モデルナ・ジャパン株式会社
森下仁丹株式会社

展示協賛企業（団体）

アークレイマーケティング株式会社
有限会社 アイ・ピー・エス
アイリス株式会社
アサヒグループ食品株式会社
アドバンス・ウイング株式会社
アボット ダイアグノスティクス メディカル株式会社
ウェルチ・アレン・ジャパン株式会社
株式会社エムアイユー
エムスリーソリューションズ株式会社
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社
大塚製薬株式会社
株式会社オグラ
株式会社オムニバス・エンターテイメント
KAZEN WLD 株式会社
極東製薬工業株式会社
株式会社グッドバトン
グラクソ・スミスクライン株式会社
株式会社クランバース
株式会社 GENOVA
ケンツメディコ株式会社
コニカミノルタ株式会社
ジークス株式会社
シースター株式会社
シスメックス TMC 株式会社

株式会社ジャパン・メディカル・カンパニー
株式会社瑞光メディカル
合同会社 3Aims
株式会社ダイナミクス
株式会社タウンズ
高田製薬株式会社
チェスト株式会社
デンカ株式会社
株式会社東京エム・アイ商会
東邦薬品株式会社
東洋紡株式会社
ドクターキューブ株式会社
株式会社ニチレイバイオサイエンス
日本メディカルシステム株式会社
一般社団法人 日本ワクチン産業協会
ビオメリュー・ジャパン株式会社
株式会社フォーメド
富士フィルムメディカル株式会社
富士レビオ株式会社
株式会社 Berry
株式会社ボットロジー
株式会社堀場製作所/フクダ電子株式会社
ホロジックジャパン株式会社
森下仁丹株式会社
株式会社レイヤード

広告協賛企業

有限会社岩田商店
ヴィアトリス製薬株式会社
株式会社グッドバトン
株式会社照林社
株式会社ツムラ
医療法人社団ナイズ
フェリング・ファーマ株式会社
株式会社ミズホメディアー

書籍

株式会社ガリバー
株式会社童話館

寄附

株式会社ツムラ

2023年7月20日現在
(五十音順・敬称略)

RESTRAINER

【小児抑制具】

レストレイナー

小児向け抑制具のスタンダード

静止状態の維持が難しい小児を優しく抑制し、思わぬ事故を未然に防止します。



お問い合わせはこちら

有限会社 岩田商店 メディカル事業部

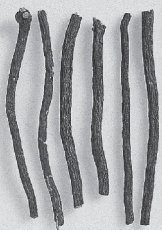
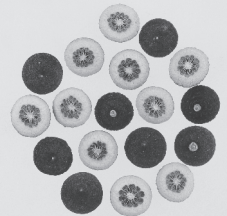
〒125-0033 東京都葛飾区東水元1-17-13-2F

TEL.03-3607-4686 FAX.03-3608-2367

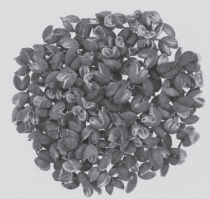
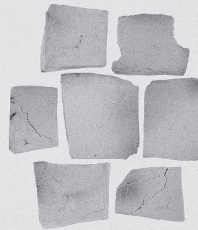
詳しくはWEBサイトへ

<http://www.iwata-company.com>

レストレイナー 岩田



生薬には、
個性がある。



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



脳下垂体ホルモン剤

薬価基準収載

ミニリンメルト[®]OD錠

60 μ g/120 μ g/240 μ g

MINIRINMELT[®] デスマブレン酢酸塩水和物口腔内崩壊錠 劇薬・処方箋医薬品^{※1}

※1 用法第一読時特約処方箋にのみ使用可能

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については電子添文をご参照ください。

FERRING
PHARMACEUTICALS

製造販売元(輸入)

フェリング・ファーマ株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目3番17号
(文献請求先) くすり相談室
フリーダイヤル: 0120-093-168 FAX: 03-3596-1107

販売元

キッセイ薬品工業株式会社

松本市芳野19番48号
文献請求先および問い合わせ先
(文献請求先) くすり相談センター
東京都文京区小石川3丁目1番3号 TEL 0120-007-622
(販売情報提供活動問い合わせ先) 0120-115-737

JP-MNM-2200312
MH3001NL
2022年9月改訂

デンストメトリー分析装置 スマートQCリーダー[®]

特定保守管理医療機器 届出番号41B2X10001000005

1 選べるモード設定

モード①: ヨミトリ

反応時間経過後のテストプレートを判定

モード②: ジドウソクテイ

試料滴下後のテストプレートを判定

▶ヒーター内蔵で低温時でも安心測定

2 検査結果は自動でプリントアウト

検体名 (ID) も印字

3 軽量 (約0.7kg) ※ACアダプタ、電池は含まない

コンパクト 幅 103× 奥行 220× 高さ 125mm

4 時間管理が不要 光と音でお知らせします

対応試薬

クイックチェイサー SARS-CoV-2、
クイックチェイサー SARS-CoV-2/Flu、
クイックチェイサー Flu A,B、クイックチェイサー Strep A、
クイックチェイサー Adeno、クイックチェイサー RSV/hMPV、
クイックチェイサー 肺炎球菌Ⅱ、
クイックチェイサー 肺炎球菌/レジオネラ



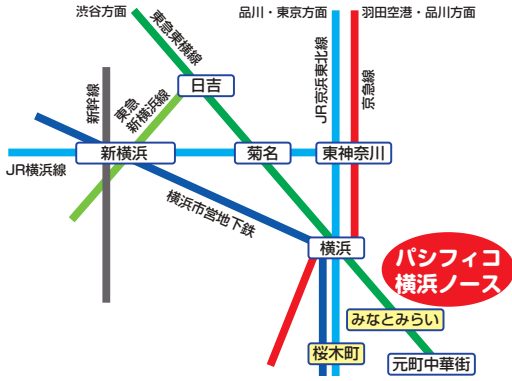
■製造販売元  株式会社 ミズホメディー

佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4

<https://www.mizuho-m.co.jp>

学術担当窓口 お客様専用 月～金(祝日を除く)
9:00～12:00 13:00～17:00

 0120-12-4636



飛行機でお越しの場合

リムジンバスで

パシフィコ横浜行き直通リムジンバスを利用。

電車で

京浜急行（エアポート急行）横浜・逗子方面行きを利用し横浜駅下車、みなとみらい線に乗り換え、みなとみらい駅下車。

電車・新幹線でお越しの場合

東京駅より

JR 東海道線・横須賀線を利用、横浜駅にてみなとみらい線に乗り換え、みなとみらい駅下車。

渋谷駅より

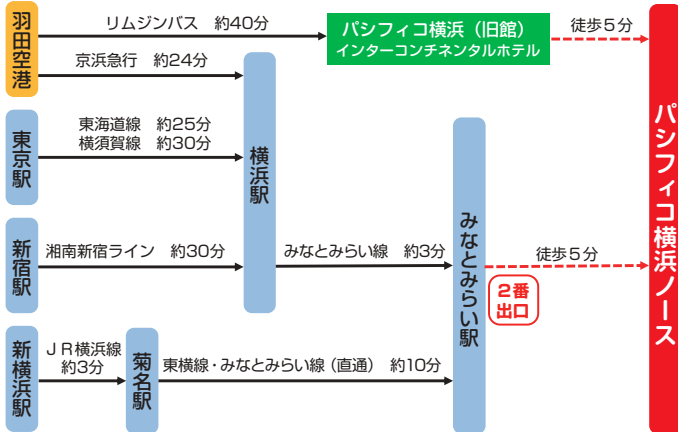
東急東横線（特急）利用（みなとみらい線直通）、みなとみらい駅下車（約 35 分）。

新宿駅より

JR 湘南新宿ラインを利用、横浜駅にてみなとみらい線に乗り換え、みなとみらい駅下車。

東海道新幹線 新横浜駅より

JR 横浜線を利用、菊名駅にて東急東横線元町・中華街方面（特急・みなとみらい線直通）に乗り換え、みなとみらい駅下車。



会場周辺図



こんな困りごと、ありませんか？

\\ 保護者からこんな声が //

\\ 病児・病後児保育の現場では //



施設となかなか電話が繋がらない



繰り上げ連絡の電話が繋がらない



夜でも休日でも予約できたらいいのに



寝かしつけた子が電話の音で起きちゃった



やっと電話できたけど満室だった



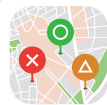
キャンセル対応や利用者の管理が大変

病児保育のその課題、

「あずかるこちゃん」で解決しましょう。



LINE からいつでも
予約&キャンセル



施設の空き状況を
リアルタイムに見える化



リマインド機能で
キャンセル忘れ防止



病児保育に特化した
見やすい管理画面



あずかるこちゃん
病児保育支援システム

「あずかるこちゃん」へのご相談はお気軽に。
体験版もご用意しています。

☎ 050-3703-2017 🌐 <https://azkl.jp>

